

第4次魚津市地域福祉活動計画

《平成29年度～平成33年度》

平成29年3月
魚津市社会福祉協議会

はじめに

急速な高齢化や核家族化が進む中、孤立することなく「健康で長生きしたい」とは誰もが思い願うことであり、生涯を通じて健康で生きがいを持って暮らし続けられる地域づくり、仕組みづくりが重要となっています。しかしながら、地域における各種活動の担い手不足、近隣や地域との結びつきの希薄化、個人情報への配慮による孤立など地域を取りまく環境は大きく変化し、福祉ニーズはますます複雑、多様化してきています。

魚津市社会福祉協議会では、地域福祉をめぐる課題や社会情勢の変化を踏まえながら、第3次の活動計画の成果や課題を受け継ぎ、発展的に継続することを基本として「第4次地域福祉活動計画」を策定致しました。

本計画では、第3次地域福祉活動計画策定以降取り組んできました隣接住民による支え合いを基本とするケアネット活動、新たな福祉の担い手の発掘とリーダーの育成、子どもや子育てする親を地域全体で支える子育て支援などの事業の一層の拡充を図ります。また、新たな取り組みとして、あんしんカードと連携した支え合いマップ活用の推進、地区社協が取り持つ福祉総合相談会などの地域拠点型相談体制の構築、応急的支援に備えたりサイクルバンク事業の実施等に着手し、関係機関や各種団体並びに地域ボランティアとの連携を図ってまいります。

今回新たに、各地区社協では、それぞれの地域特性を活かしながら、地域が抱える福祉課題を明らかにし、その解消に向け、地域で自律的・継続的に取り組んでいくための活動計画（小地域福祉活動計画）を策定しました。市社協では、地区単位の中長期の活動計画の推進に取り組むこととしており、地区社協と連携しながら各活動計画の推進・実践に向け、協働してまいります。

今後は、計画策定に関わっていただいた方々の想いを実現していくためにも、本計画を広く住民の皆様にお伝えし、計画の基本理念である「みんなが安心して、暮らし続けることができる、地域づくりのために～ 地域共生社会の構築を目指して ～」の実現に向けた活動を、住民の皆様との連携、協働により取り組んでまいりたいと考えておりますので、より一層のご協力とご参加を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、本計画の策定にあたり、貴重なご意見と多大なご協力を賜りました策定委員や関係者の皆様、そして課題把握のために実施した年代別アンケートや課題別ヒアリング、さらには全地区で実施しました地域座談会にご協力いただきました多くの住民の皆様にご心より感謝とお礼を申し上げます。

平成 29 年 3 月

社会福祉法人 魚津市社会福祉協議会
会 長 本 元 義 明

第4次魚津市地域福祉活動計画（目次）

第1章 地域福祉活動計画の策定にあたって

| | |
|-----------------|---|
| 1 地域福祉活動計画とは | 1 |
| 2 計画の位置づけ | 1 |
| 3 計画期間 | 1 |
| 4 魚津市社会福祉協議会の役割 | 2 |
| 5 計画策定の概要 | 2 |

第2章 魚津市の地域福祉を取り巻く状況（特性、課題、ニーズ）

| | |
|------------------------------|---|
| 1 魚津市の地域福祉の状況 | 3 |
| 2 ニーズ把握の調査対象 | 3 |
| （1）年代別アンケート | 3 |
| （2）課題別当事者ヒアリング(高齢者、障がい者、子育て) | 4 |
| （3）地域福祉座談会 | 5 |
| （4）企業及び団体の地域貢献に関する意識調査 | 5 |
| 3 ニーズ把握と課題分析 | 6 |

第3章 第4次魚津市地域福祉活動計画基本理念と基本目標

| | |
|--------------------|---|
| 1 基本的な考え方 | 9 |
| 2 第4次魚津市地域福祉活動計画体系 | 9 |

第4章 第4次魚津市地域福祉活動計画の具体的展開内容

| | |
|---------------------|----|
| 基本目標Ⅰ 地域を元気にするひとづくり | |
| 施策1 社会参加と自立の促進 | 11 |
| 施策2 福祉活動の担い手育成 | 14 |
| 基本目標Ⅱ 安心して暮らせる地域づくり | |
| 施策3 協働による福祉社会の推進 | 17 |
| 施策4 福祉サービス基盤の充実 | 18 |
| 基本目標Ⅲ 地域で支え合うしくみづくり | |
| 施策5 人権を尊重した相談体制の推進 | 21 |
| 施策6 地域包括ケアシステムの推進 | 25 |

| | |
|--------------------------------|----|
| 第5章 第1次地区(小地域)福祉活動計画の概要 | 28 |
| 大町地区(小地域)福祉活動計画 | 29 |
| 村木地区(小地域)福祉活動計画 | 31 |
| 下中島地区(小地域)福祉活動計画 | 33 |
| 上中島地区(小地域)福祉活動計画 | 35 |
| 松倉地区(小地域)福祉活動計画 | 37 |
| 上野方地区(小地域)福祉活動計画 | 39 |
| 本江地区(小地域)福祉活動計画 | 41 |
| 片貝地区(小地域)福祉活動計画 | 43 |
| 加積地区(小地域)福祉活動計画 | 45 |
| 道下地区(小地域)福祉活動計画 | 47 |
| 経田地区(小地域)福祉活動計画 | 49 |
| 天神地区(小地域)福祉活動計画 | 51 |
| 西布施地区(小地域)福祉活動計画 | 53 |
| | |
| 第6章 計画の推進体制、推進管理 | 55 |
| | |
| 資料編 | |
| (1) 年代別アンケート | 56 |
| (2) 課題別当事者ヒアリング(高齢者、障がい者、子育て) | 61 |
| (3) 地域福祉座談会 | 68 |
| (4) 企業及び団体の地域貢献に関する意識調査 | 73 |
| (5) その他 | 75 |

第1章 地域福祉活動計画の策定にあたって

1 地域福祉活動計画とは

魚津市の地域福祉活動計画は、魚津市の地域特性を活かし、地域住民や社会福祉関係者、民間企業などの持つ資源を活用して、地域の課題を解決するための計画です。地域住民、ボランティア団体、NPO 法人、福祉施設、企業、社会福祉協議会（社協）などそれぞれが連携、役割分担をし、地域の課題解決に取り組むための民間の活動・行動計画です。

また、行政の策定する地域福祉計画と一体化し、整合性を図って策定しています。基本理念を共有した上で、行政計画と連携した「地域福祉活動計画」は、地域福祉推進のために社会福祉協議会が策定する民間側の活動・行動計画です。福祉サービスの提供や、民間活動の支援策を示しています。

2 計画の位置づけ

魚津市地域福祉活動計画は、市の第3次地域福祉計画と一体的に策定されています。基本理念を共有した上で、行政計画と連携した民間側の取り組みを定める参加型行動計画として、福祉サービスの提供や、民間活動への支援策を示しています。住民の主体的活動を支援するために、社会福祉協議会が担う役割も計画に含まれます。誰もが地域で安心して暮らしていけるよう、住民や地域の課題等を幅広く取り上げ、その中から課題を絞り、住民がその課題にどのように関わり解決していくか、また、社会福祉協議会がそれをどう応援するのかをまとめたものです。

3 計画期間

本計画は平成29年から平成33年までの5年間の計画です。社会情勢や各地区の地域福祉活動実施状況を踏まえ、1年毎に振り返りをして計画を推進します。

| | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| H28 年度 | H29 年度 | H30 年度 | H31 年度 | H32 年度 | H33 年度 | H34 年度 | H35 年度 | H36 年度 | H37 年度 |
|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|

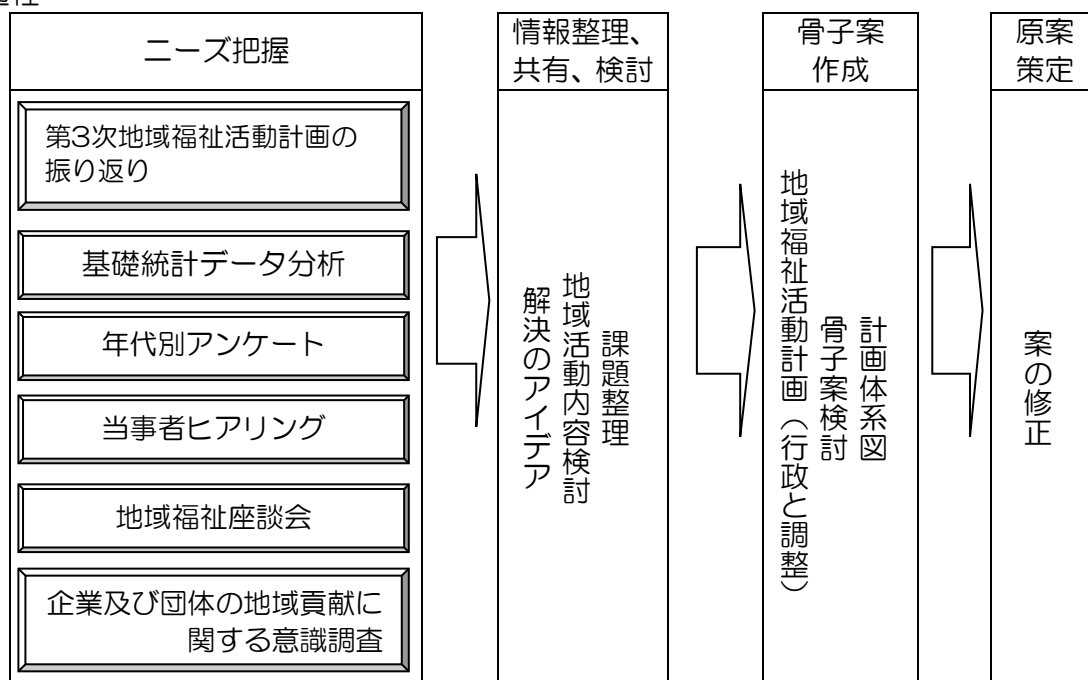


4 魚津市社会福祉協議会の役割

社会福祉協議会は、社会福祉法第 109 条の規定に基づき、民間の社会福祉活動を推進することを目的とした営利を目的としない民間組織です。社会福祉協議会には、住民主体の理念に基づき、地域にある福祉問題を、みんなで考え、話しあい、課題の解決に向けて取り組むという活動を通して、地域に働きかけ、福祉コミュニティづくりを推進する役割や、住民と関係機関・団体などをつなげていく中核的な組織としての役割が求められています。

5 計画策定の概要

策定過程



第2章 魚津市の地域福祉を取り巻く状況(特性、課題、ニーズ)

※詳細については資料編56ページから掲載しております。

1 魚津市の地域福祉の状況

魚津市の人口は、1985年(昭和60年)の49,825人をピークに、2015年(平成27年)住民基本台帳では、42,987人、2025年には4万人を下回る見込みで、人口の減少が続くことが予想されます。15歳未満の人口は減少し65歳以上の人口が増加する少子高齢化が大変進み、介護保険認定者数や認知症患者数も同様に増加が見込まれます。障がい者の分野では、精神障害者保健福祉手帳の交付者数は、現代のストレス社会を反映して増加傾向にあります。また、核家族が進んでいるために2015年(平成27年)世帯員数も3.0人となり、ますます減少傾向が顕著に現れています。

人口構造の変化とともに家族関係の希薄や近隣関係の脆弱が進んでいるのではないかと、ニーズや課題を抱えながら解決できなく生活のしづらさを感じている方が多いのではないかと、自分らしく地域で自立した生活するために地域として推進すべきことは何か、小学校統廃合とともに地域単位の活動が継承されるのか等の声を、住民から聞き取ることで、意識や気づき、ニーズや課題を把握したく以下の調査を実施しました。

2 ニーズ把握の調査対象

住民に対する年代別アンケート調査をはじめ、高齢者、障がい者、子育て世代の当事者に対する課題別ヒアリング調査、地区ごとに実施した「地域福祉座談会」、企業及び団体の地域貢献に関する意識調査を実施しました。それぞれの調査にはたくさんの住民の方々にご協力いただきました。

(1) 年代別アンケート

年代別アンケート回答・・・1,378人

アンケート回収率・・・1,378枚/1,705枚 ≒80.8%

○ 年齢

| 年代 | 10歳代 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳代 | 未回答 | 合計 |
|--------------|---------------|-------------|---------------|---------------|---------------|---------------|--------------|-------------|------------|----------------|
| 回答数:人 (%) | 337 (24.5) | 95 (6.9) | 197 (14.3) | 233 (16.9) | 178 (12.9) | 186 (13.5) | 109 (7.9) | 41 (3.0) | 2 (0.1) | 1,378 (100) |

本計画では、年代別アンケートを実施して、多くのご意見を広い年代にとることを目的としました。特に、就労者や若い世代のご意見が反映される機会としました。現代における家族関係の希薄化や近隣関係の脆弱化が現れ、地域参加にも温度差があるようです。

(2) 課題別当事者ヒアリング

高齢者部会 回答 185人

○ 年齢

| 年代 | 60歳代 | 70歳代 | 80歳代 | 90歳代 | 合計 |
|-------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 回答数：人 | 21 | 64 | 82 | 18 | 185 |
| (%) | (11.4) | (34.6) | (44.3) | (9.7) | (100) |

○ 性別

| 男性 | 女性 |
|--------|--------|
| 57 | 128 |
| (30.8) | (69.2) |

ふれあい・いきいきサロンや老人クラブなどのふれあいの場を活用している方が多いことがわかりました。また、見守り声掛けは必要であり自分でもできることではないかとの意見がありました。移動手段がない為、買い物や、移送等の生活課題の不安が表れています。

障がい者部会 回答 129人

○ 年齢

| 年代 | 10歳代 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 60歳代 | 70歳代 | 未回答 | 合計 |
|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 回答数：人 | 4 | 13 | 19 | 29 | 24 | 29 | 8 | 3 | 129 |
| (%) | (3.1) | (10.1) | (14.7) | (22.5) | (18.6) | (22.5) | (6.2) | (2.3) | (100) |

○ 手帳の区分

| 障害区分 | 身体 | 精神 | 療育 | なし | 未回答 | 合計 |
|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|
| 回答数：人 | 24 | 39 | 37 | 23 | 6 | 129 |
| (%) | (18.6) | (30.2) | (28.7) | (17.8) | (4.7) | (100) |

○ 性別

| 男性 | 女性 | 未回答 |
|--------|--------|-------|
| 84 | 43 | 2 |
| (65.1) | (33.3) | (1.6) |

市内には、精神科病院が2ヶ所、市社会福祉協議会では身体障害者デイサービスセンター、児童発達支援センターつくし学園、障害者交流センター、障がい者生活支援センターを運営し障がい者支援を実施しています。それに伴い社会復帰施設が恵まれていたり、障害者交流センターを通じた交流行事の開催が頻回に実施されたりしています。地域で暮らす障がい者ニーズに応えた生活環境となっているかヒアリングをしました。移動手段や外出支援の問題、災害時の不安が結果として表れました。

子育て部会 回答 177人

○ 回答していただいた保護者の年齢

| 年代 | 20歳代 | 30歳代 | 40歳代 | 50歳代 | 合計 |
|-------|-------|--------|--------|-------|-------|
| 回答数：人 | 10 | 97 | 68 | 2 | 177 |
| (%) | (5.7) | (54.8) | (38.4) | (1.1) | (100) |

○ 性別

| 男性 | 女性 |
|-------|--------|
| 9 | 168 |
| (5.1) | (94.9) |

○ お子さんの年齢

| 年齢 | 0歳児 | 1歳児 | 2歳児 | 3歳児 | 4歳児 | 5歳児 | 小学 低学年 | 小学 中学年 | 小学 高学年 |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-----------|-----------|-----------|
| 回答数：人 | 4 | 15 | 17 | 12 | 10 | 15 | 87 | 13 | 4 |
| (%) | (2.3) | (8.5) | (9.6) | (6.8) | (5.6) | (8.5) | (49.1) | (7.3) | (2.3) |

ヒアリング対象者が、市社会福祉協議会が管理運営する児童センター利用者が多かったことがあり、子育て中の親が抱える仕事、家事、子育ての両立の苦労を聞き取ることが出来ました。少子化が進む中、地域で子どもを育てる体制の整備が必要です。

(3) 地域福祉座談会 出席者 632 人

| | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|------|------|------|------|-------|------|------|------|-------|------|-------|------|------|-----|
| 日付 | 9/26 | 9/23 | 9/28 | 10/7 | 10/14 | 9/29 | 9/21 | 10/4 | 10/20 | 9/27 | 10/13 | 9/14 | 9/16 | |
| 地区名 | 大町 | 村木 | 下中島 | 上中島 | 松倉 | 上野方 | 本江 | 片貝 | 加積 | 道下 | 経田 | 天神 | 西布施 | 市合計 |
| 参加人数 単位：人 | 54 | 30 | 46 | 45 | 22 | 57 | 73 | 36 | 60 | 58 | 60 | 31 | 60 | 632 |
| グループ数 | 6 | 4 | 4 | 5 | 4 | 7 | 7 | 4 | 6 | 6 | 8 | 4 | 7 | 72 |

魚津市 13 地区で開催した地域福祉座談会には、多くの方が出席され意見ができました。魚津市では小学校の統廃合が進行中で住民の不安感を解消するために、登下校や放課後児童の問題、小学校跡地の活用の課題が自治振興会を中心としたまちおこしの取り組みとして始まっています。学校行事と絡んだ地域活動の今後の展望も課題となっています。どの地区の内容は「魚津」「地元」への愛着が伝わる座談会でした。

(4) 企業及び団体の地域貢献に関する意識調査 回答 140 社

企業及び団体の意識調査回答 …… 140 社

企業及び団体の意識調査回収率 …… 140 枚 / 568 枚 ≒ 24.6%

○従業員数

| 従業員数 | 0～9 人 | 10～19 人 | 20～49 人 | 50～99 人 | 100 人以上 | 未回答 | 合計 |
|----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|----------------|---------------|-----------------|
| 企業及び団体数 (%) | 75 社 (53.5%) | 18 社 (12.9%) | 15 社 (10.7%) | 12 社 (8.6%) | 12 社 (8.6%) | 8 社 (5.7%) | 140 社 (100%) |

意識調査では、それぞれが貢献活動をしていることと、情報があれば地域貢献の機会を持ちたいと考えている企業及び団体があることが分かりました。企業に対して、情報提供が不足していることが分かりました。

3 ニーズ把握と課題分析

(1) 社会参加と自立の促進に関連するニーズや課題

| 主なニーズ・課題 | ニーズや課題として意見のあがった地区など |
|---|--|
| サロンや体操教室の充実 障がい者に対する理解の促進 差別的言動の排除 日常生活における役割の創出 自立を支援する福祉の充実 雇用に関する支援の充実 集える場の充実 | 高齢・子育て 障がい 障がい 高齢・障がい 年代別・障がい 年代別・障がい 年代別・高齢・子育て・上野方・本江・加積・道下・天神 |

(2) 福祉活動の担い手の育成に関連するニーズや課題

| 主なニーズ・課題 | ニーズや課題として意見のあがった地区など |
|---|--|
| 若者（担い手）の流出 ボランティア活動への参加促進 福祉意識を育む機会の充実 （企業・法人との連携も視野） 高齢者の増加・高齢化の進行 | 大町・下中島・松倉・片貝・経田・西布施 年代別・企業・村木 年代別・障がい・企業 |
| リーダー・担い手不足（人材の育成） 除雪の対応（一人暮らし高齢者など） ボランティアの活動分野創出 | 大町・村木・下中島・上中島・松倉・上野方・加積・片貝・経田 年代別・企業・村木・下中島・上中島・松倉・本江・加積・道下・経田・西布施 年代別・高齢・企業・片貝・道下・経田・天神・西布施 年代別・企業 |

(3) 協働による福祉社会の推進に関連するニーズや課題

| 主なニーズ・課題 | ニーズや課題として意見があがった地区など |
|--|---|
| 近隣関係の希薄化 地区行事への関心希薄化 交流機会の減少 地域互助に対する不安の増大 近所付き合いに対する不安の増大 | 年代別・村木・下中島・上中島・松倉・本江・加積・道下・天神 年代別・下中島・上野方・加積・経田・天神・西布施 高齢・村木・下中島・上中島・道下・経田 年代別・高齢・障がい・松倉・本江・加積 高齢・障がい・大町・下中島・上中島・上野方・本江・片貝・道下 |
| 空き家の対策 インフラの整備 （道路・学校・公的機関など） 鳥獣被害への対策充実 | 大町・村木・下中島・松倉・経田 大町・村木・下中島・上中島・松倉・上野方・本江・片貝・加積 松倉・片貝・西布施 |

(4) 福祉サービス基盤の充実に関連するニーズや課題

| 主なニーズ・課題 | ニーズや課題として意見のあがった地区など |
|-------------------|---------------------------------------|
| 買い物サービス支援の充実 | 年代別・高齢・障がい・大町・上中島・上野方・片貝・経田・西布施 |
| 移動手段・移送サービスの充実 | 高齢・障がい・大町・下中島・上中島・上野方・本江・片貝・道下・天神・西布施 |
| 付添など外出支援サービスの充実 | 年代別・障がい |
| 子育て支援の充実(延長保育・学童) | 年代別・子育て・村木・西布施 |
| 障がい者サービスの充実 | 年代別・高齢・障害 |
| 生活困窮者サービスの充実 | 年代別・高齢・障がい |

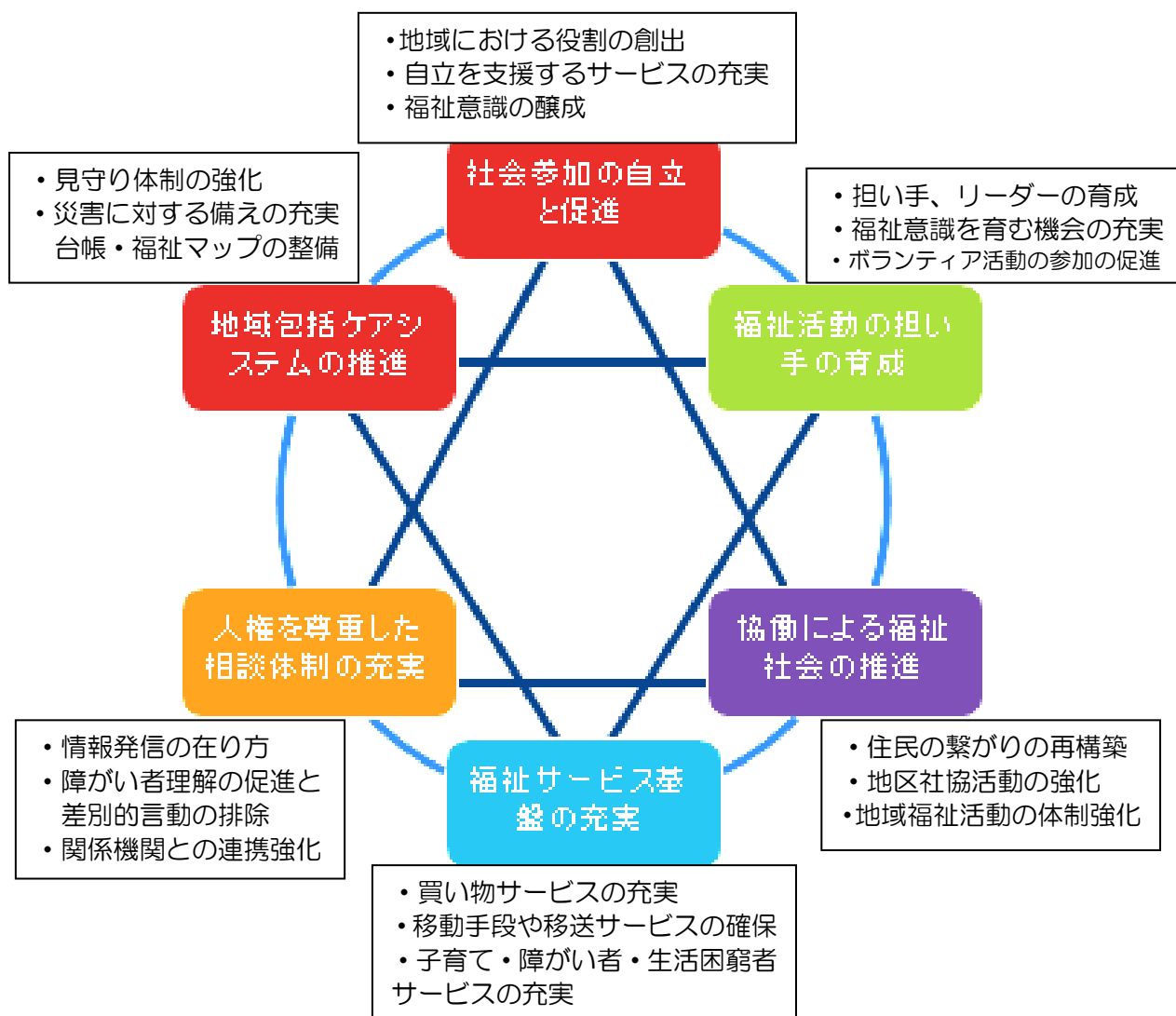
(5) 人権を尊重した相談機能の推進に関連するニーズや課題

| 主なニーズ・課題 | ニーズや課題として意見のあがった地区など |
|---------------------------------|----------------------|
| 相談相手・話し相手の不在 | 高齢・障がい・子育て |
| 福祉に関する情報発信の在り方 | 年代別・障がい・子育て・上野方・本江 |
| 相談機関の周知が不十分 | 年代別・高齢・障がい |
| 相談機関・福祉総合相談の充実 | 年代別・大町 |
| 特殊詐欺犯罪などの対策充実 (警察など専門機関との連携) | 年代別 |
| ボランティア情報の発信方法 | 年代別 |

(6) 地域包括ケアシステムの推進に関連するニーズや課題

| 主なニーズ・課題 | ニーズや課題として意見があがった地区など |
|--------------------------------|-------------------------|
| 見守り体制の充実 | 年代別・高齢 |
| 災害に対する備えの充実 (台帳、福祉マップの整備など) | 年代別・高齢・障がい・松倉・本江・加積・西布施 |

地域ニーズと地域課題は多様化複雑化して相互に関わり合っている



第3章 第4次魚津市地域福祉活動計画基本理念と基本目標

1 基本的な考え方

地域社会、家族の変化に伴い、課題やニーズが多様化複合化、必要な支援の複雑化が進行しています。また、介護保険制度改正、生活困窮者自立支援事業の施行、社会福祉協議会事業に関わる制度改革が行われました。地域の特性を活かして、誰もが自分らしく生活し、支えて支えられる地域社会の構築に向けた福祉社会が望まれます。

地域福祉活動計画では、魚津市地域福祉計画の基本理念である「みんなが安心して、暮らし続けることができる、地域づくりのために～ 地域共生社会の構築を目指して ～」を同じく基本理念として、地域全体に共通する課題として考え、行動することが必要であるとしています。ひとりの課題を地域の問題として考え、行動することで、ひとりひとりが笑顔で暮らし続けることができ、誰もが魚津市に住んでいて良かったと思える優しいまちづくりを実現したいと考えています。

今後、制度化される地域福祉の動向を見極め、時代に応じた地域を基礎とした重層的、総合的な地域福祉を更に進めていきます。

2 第4次魚津市地域福祉活動計画体系

基本理念の実現に向け、魚津市地域福祉計画の基本理念、基本目標、施策をもとに、住民と市社会福祉協議会が協働する「方向性」「具体的取り組み」を揚げ、一体的な地域福祉活動の展開を推進します。

第4次魚津市地域福祉活動計画体系図

基本理念

みんなが安心して、暮らし続けることができる、地域づくりのために
～ 地域共生社会の構築を目指して ～

| 基本目標 | 施策 | 方向性 | 具体的取り組み |
|---------------|-----------------------|--|---|
| Ⅰ 地域を元気にする | 施策1 社会参加と自立の促進 | (1)多様な人々(高齢者、障がい者、子ども等)の自立と世代をつなぐ社会参加の促進 | 居場所づくり 交流の機会の拡充と強化 |
| | | (2)福祉意識の醸成 | 子どもから高齢者まで対象の福祉教育の推進 |
| | 施策2 福祉活動の担い手育成 | (3)互助・共助・協働による地域福祉の推進 | <ul style="list-style-type: none"> Ⓜ 担い手の発掘・養成とリーダーの育成 Ⓜ 福祉人材の地区社協登録制の体制促進 Ⓜ 企業などと連携した生活支援システムの推進 Ⓝ 社会福祉法人の地域公益活動の推進 Ⓜ 地域による子育て支援の促進 |
| | | (4)ボランティア活動の推進 | ボランティアセンターの機能強化 |
| Ⅱ 安心して暮らす | 施策3 協働による福祉社会の推進 | (5)地域に合った地区社協活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> Ⓜ 地区社協の基盤強化 地域福祉活動の財源確保 Ⓝ 地区福祉活動計画の推進 |
| | 施策4 福祉サービス基盤の充実 | (6)高齢者・障がい者・子育て世代への生活支援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> Ⓜ ケアネット活動の充実 Ⓜ 生活支援サービスの推進 (移送、配食、買い物他) |
| Ⅲ 地域を支える | 施策5 人権を尊重した相談体制の推進 | (7)住民が相談しやすい体制の整備 | <ul style="list-style-type: none"> Ⓜ 複数の課題を包括的に多職種連携で取り組む機能の強化 Ⓝ 地域拠点型相談体制(出前相談)構築 Ⓜ コミュニティソーシャルワーカー(地域福祉専門職員)の地域担当制の推進 |
| | | (8)情報のネットワークの共有化 | <ul style="list-style-type: none"> 広報活動の活性化 |
| | | (9)権利擁護の促進 | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活自立支援事業 法人後見推進事業 生活福祉資金貸付事業 Ⓝ リサイクルバンク事業 |
| | 施策6 地域包括ケアシステムの推進 | (10)包括ケアシステムの推進 | <ul style="list-style-type: none"> 福祉推進員活動の充実 Ⓜ 生活支援・介護予防サービスの充実 在宅医療介護連携の推進 Ⓜ 生活支援コーディネーター事業 |
| | | (11)災害に備えた取り組みの推進 | <ul style="list-style-type: none"> Ⓜ あんしんカードの整備促進 Ⓝ 支えあいマップ活用の推進 災害救援ボランティア活動体制の強化 |

第4章 第4次魚津市地域福祉活動計画の具体的展開内容

基本目標Ⅰ 地域を元気にするひとづくり

施策1 社会参加と自立の促進

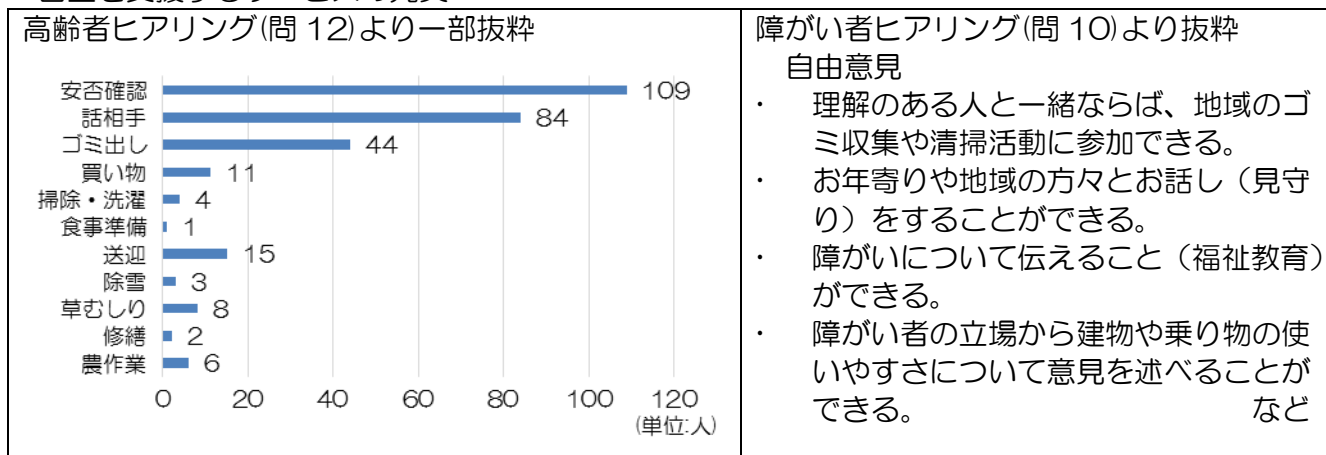
Ⅰ-1-(1) 多様な人々(高齢者、障がい者、子ども等)の自立と世代をつなぐ社会参加の促進

第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

地域福祉の対象者は住民全ての人達です。誰もが自分らしく自立した生活を築きながら社会との接点を持つこと、参加の権利があります。小地域の見守り、支え合いの場としての機能を有したふれあい・いきいきサロンは、平成28年度現在83箇所、子育てサロンは6箇所あり、各サロンの特徴を活かしながら、孤立防止や情報交換をして楽しく開催されています。また、障害者交流センターや福祉センターなどは、高齢者や障がい者の集う場として活用されています。

ニーズと課題

地域における役割の創出
自立を支援するサービスの充実



「役に立ちたい」という思いは自立を促進する際の重要な要素と考えられます。高齢者も障がい者も子どもも地域社会の一員として、役割を担う(役割を一緒に作りあげる)試みが重要です。そのためには、高齢者や障がい者に対する理解の促進を同時に取り組んでいく必要があります。

今後の取り組み

住民の自主性を尊重し地域の特性を生かした、だれもが参加しやすく話しやすい集いの場を増やし、地域の活性化を図ります。高齢者・障がい者・子ども・生活困窮者が支援を受け、また担い手になることでその人らしく生活できる環境(地域)づくりを促進します。

| 具体的 取り組み | 方法 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 連携団体 | |
|-------------|---|----|----|----|----|-------------|---|------------------------------------|
| | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | | |
| 居場所づくり | ふれあい・いきいきサロン、子育てサロン、地区体操教室、地区行事等の集まりの場の活動を強化します。 また、福祉センター、障害者交流センター、児童センターの活用の機会を増やします。 | | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 民生委員児童委員 福祉推進員 老人クラブ 市地域包括支援センター 市社会福祉協議会 障害者交流センター 健康センター | |
| | | | | | | | | 83箇所 6箇所 合計 89箇所 合計 100箇所 |
| | | | | | | | | |
| 交流の用品の充実 | 【レクリエーション用品貸出件数】 現状 平成 28 年度 目標 平成 33 年度 | | | | | 90件 120件 | | |
| 交流の機会の拡充と強化 | エンディングノートの活用、市社協主催交流事業、サロン情報交換会、地区ケース検討会など、ニーズに合った開催を推進します。 | | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 民生委員児童委員 福祉推進員 老人クラブ | |
| | | | | | | | | |

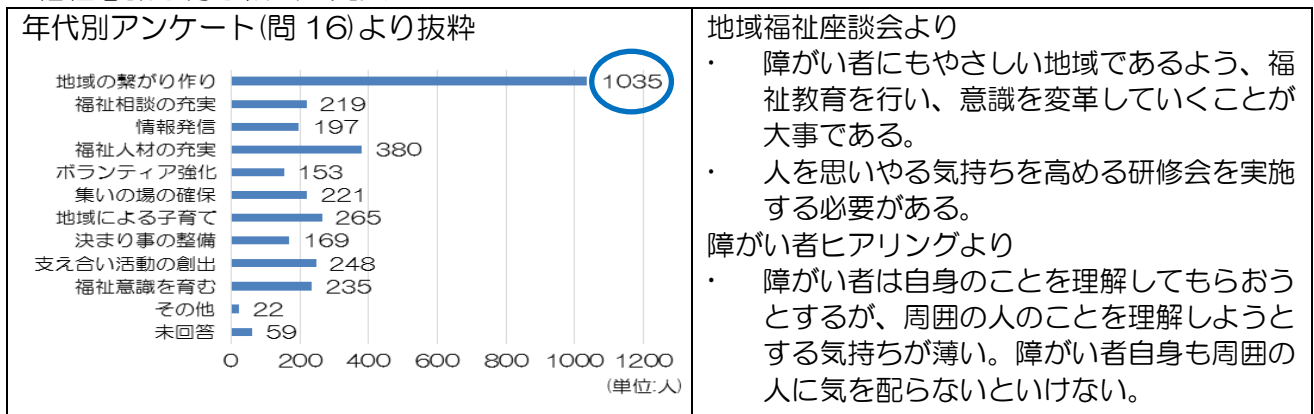
I-1-(2) 福祉意識の醸成

第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

市内小学校の福祉教育では、手話や点字を学ぶボランティアグループと障がい者当事者が学校外講師として出向き障がいの理解を深めています。また、市社会福祉協議会の各種講座や研修会を通して福祉の気づきを学習する機会、次の活動へ活かす活力としています。

ニーズと課題

福祉意識を育む機会の充実

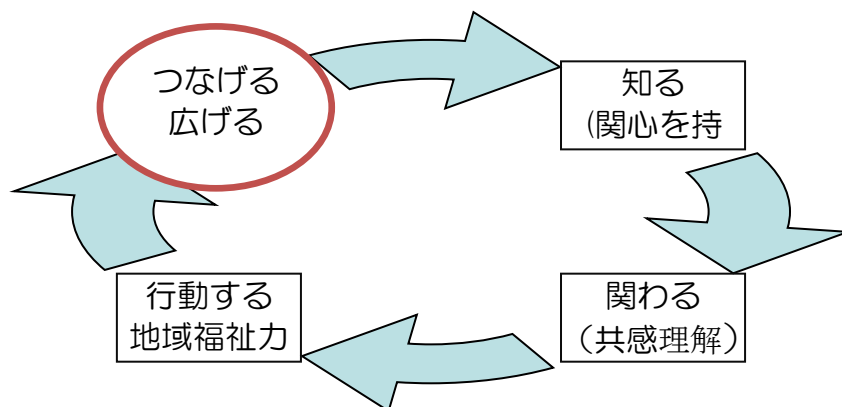


福祉意識を育む試みが地域福祉活動の推進や担い手の育成に繋がっていきます。講座、研修による学びとともに、当事者と実際に触れ合う機会を創出することが大切だと考えられます。

今後の取り組み

ボランティア活動を行うきっかけや活動の環境を整えて、子どもから高齢者まで地域の中で思いやりの心を育み、生命の尊さを学ぶ福祉教育の充実を図ります。また、子どもから大人まで、すべての住民が福祉について知る必要があります。知るきっかけがあってこそ、関心を持ち、行動する機会とつながり支え合いの輪が広がります。障がいがあっても認知症でも、誰もが尊厳を持った存在であり個性を尊重して互いを認め合える社会で寄り添い支えあう福祉の心の醸成社会の形成を目指します。

支えあいのきっかけは、「知る」こと。地域福祉活動の流れ



| 具体的 取り組み | 方法 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 連携団体 | |
|----------------------|---|---|----|-------|----|----|---|--------|
| | | 9 | 0 | 1 | 2 | 3 | | |
| | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | | |
| 子どもから高齢者まで対象の福祉教育の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 小学校、企業の福祉教室のメニューの充実を図ります。 地域、学校、企業、社会資源のネットワークを結び、共に学び協働し郷土愛の育みを推進します。あらゆる団体からのニーズに合わせた講座、体験研修の開催を企画します。 | | | | | | 市社会福祉協議会 学校 企業 社会福祉法人 NPO法人 | |
| | | 協議 | | 推進 | | | | |
| | | 【教育現場における福祉教育研修現状 平成 28 年度 ・講座開催数】 目標 平成 33 年度 | | 合計 9回 | | | | 合計 15回 |

施策2 福祉活動の担い手育成

I-2-(3) 互助・共助・協働による地域福祉の推進

第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

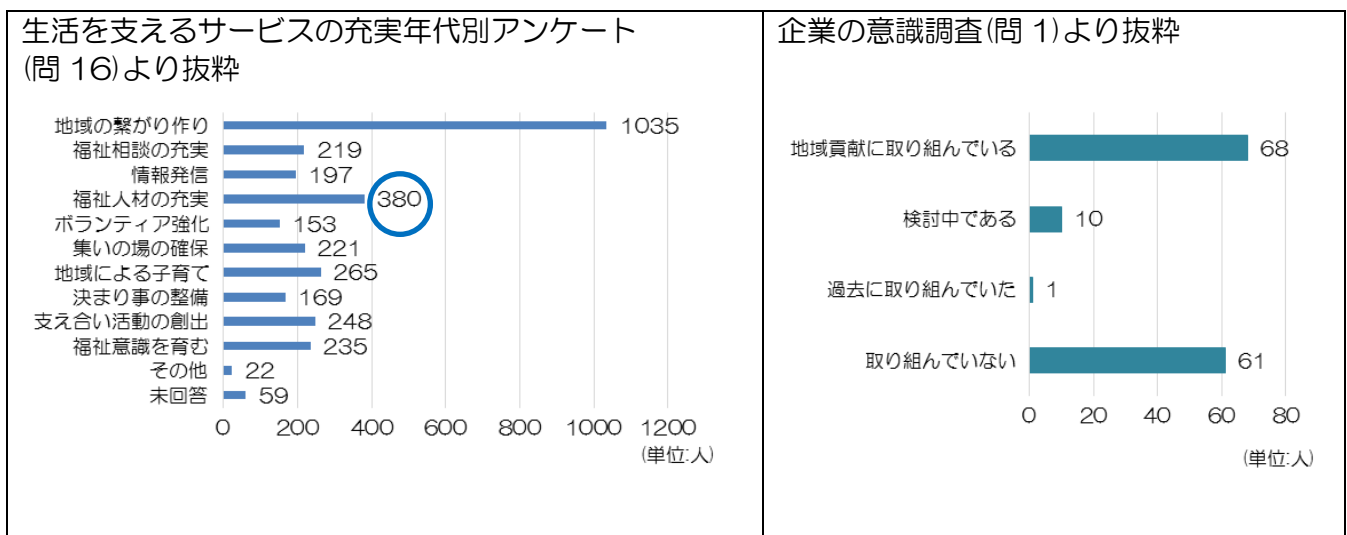
地域の特色を生かしたまちづくりを進めるため、住民が担い手として参画・協働することが大切です。

市社会福祉協議会では平成27年から「くらしのあったか応援隊養成講座」をシリーズ化して、地域福祉活動の担い手とそのリーダーの福祉人材の発掘と養成を強化しています。また、商店や企業が地域課題に合わせて地区社協の取り組みに協力していただいている、買い物支援の取り組みや、除雪ボランティアで高齢者宅へ出向く企業もあります。

地域に存在する企業、団体、社会福祉法人などと連携し、地域住民、地区社協、行政、企業、団体、社会福祉法人などが一体となり包括的なケアシステムを築いていくことが求められています。

ニーズと課題

担い手・リーダーの育成



地域福祉座談会において、殆どの地区が「リーダーや担い手の不足」を課題としてあげていました。担い手が不足しているために「人材が固定化」し、人材が固定化しているから「担い手が不足する」といった悪循環が各地区にあるようです。リーダーや担い手の不足という課題について、地域の特性と絡めて解決していくことが望ましいと考えます。

今後の取り組み

高齢者、障がい者、子育て等の分野で活動しているボランティア団体、NPO等があり、それらの団体が何かに取り組む際、団体同士が協働することにより、活動の幅が広がり深みのある内容となり大きな成果が期待できます。それぞれの分野で活動しているボランティア団体、NPO等が協力して社協と一緒に取り組み基盤強化を図ります。

企業や社会福祉法人も地域社会などの垣根を越えた協働活動を通じて、地域社会が相互理解を深め、よりよい社会の実現、社会貢献の在り方について考えます。多様な主体が分野横断的なネットワークを構築して新たな包括支援体制を実現させます。

| 具体的 取り組み | 方法 | 2 9 年 度 | 3 0 年 度 | 3 1 年 度 | 3 2 年 度 | 3 3 年 度 | 連携団体 |
|---|---|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|---|
| 拡充 担い手の発掘・ 養成とリーダー の育成 | 社会情勢を知ること、課題やニーズを共有すること、 先進的な取り組みの情報を得ることなど地域福祉の担 い手養成講座「くらしのあったか応援隊養成講座」や 研修会に参加します。 【「くらしのあったか応援隊養成講座」延べ受講者数】 現状 平成 28 年度 目標 平成 33 年度 | 拡大 | 強化 | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 民生委員児童委員 福祉推進員 ボランティアサポーター |
| 拡充 福祉人材の地区 社協登録制の体 制促進 | 「くらしのあったか応援隊養成講座」受講修了者は、 各地区の福祉の担い手になる為、地区社協に所属して 組織化を推進します。地区社協の事業を共有して、地 区一員として取り組みます。 【福祉人材登録者数（くらしのあったか応援隊含）】 現状 平成 28 年度 目標 平成 33 年度 | 強化 | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 民生委員児童委員 福祉推進員 ボランティアサポーター |
| 拡充 企業などと連携 した生活支援シ ステムの推進 | 社会貢献活動に関心のある企業や活動を検討中の企業 に対し、情報提供をして住民と協働した地域の実情に 合った課題解決に取り組むシステムを推進します。 【連携活動数】 現状 平成 28 年度 目標 平成 33 年度 | 検討 | 推進 | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 企業、商店 商工会議所 ボランティアサポーター |
| 新規事業 社会福祉法人の 地域公益活動の 推進 | 社会福祉法人の役割やあり方について協議の場を設 け、住民と協働した地域生活課題の対策に取り組みま す。 【連携活動数】 目標 平成 33 年度 | 調整 | 検討 | 実践 | | | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 社会福祉法人 |
| 地域による子育て 支援の強化 | 子どもや親の集まりの場を設けたり相談を聞いたり、 地域の子どもと子育てする親を地域全体で支えるた め、情報交換や研修会の内容を再検討します。 【子供に関する集まりの場述べ開催回数】 現状 平成 28 年度 目標 平成 33 年度 | 検討 | 推進 | | | | 市社会福祉協議会 自治振興会 ボランティア ボランティアサポーター |

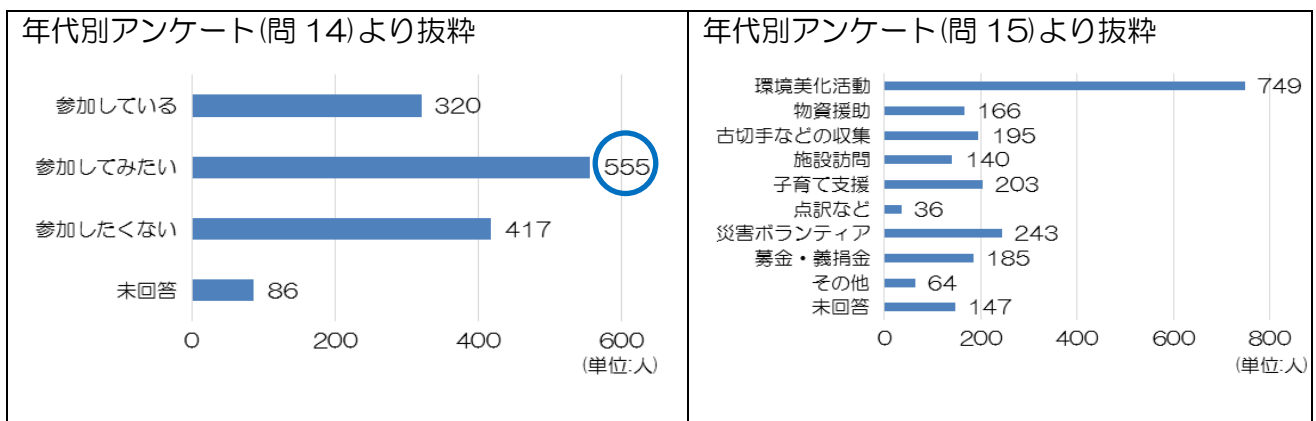
I-2-(4) ボランティア活動の推進

第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

ボランティアセンターには、研修を受けたボランティアや特技や技術を活かしたボランティアが団体や個人で登録をして、ニーズに合わせて活躍しています。ボランティア活動者の情報交換の場としてボランティア交流会を開催するとともに、ボランティアセンター運営会議で、今後の在り方について協議しています。今後は、基礎的技術や知識を有す活動者の組織化を促進することが期待されます。

ニーズと課題

ボランティア活動の参加の促進



年代別アンケートの結果より、地域行事や環境美化など、学校や自治会活動の一環としてボランティア活動に参加する方は多いが、自発的なボランティア活動を行っている方は少なく、その一方、ボランティア活動に「参加してみたい」と回答した方が555人(40%程度)もいることが分かりました。

今後の取り組み

ボランティアニーズは多岐に亘るため、社会情勢や地域、個人、施設のニーズに合ったボランティアの担い手の育成及び組織化、ネットワーク化を図っていく必要があります。

| 具体的 取り組み | 方法 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 連携団体 |
|-----------------|--|----|--------|----------|----|----|---|
| | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | |
| ボランティアセンターの機能強化 | ボランティア活動、ボランティア団体、NPO法人の紹介など積極的に情報提供、情報交換をして活動の活性化を図ります。また、ニーズに合った「傾聴ボランティア」「お出かけボランティア」の知識や技術の習得やボランティアの組織化を図ります。 | | | | | | 市社会福祉協議会 自治振興会 ボランティア連絡協議会 ボランティア ボランティアサポーター |
| | 【ボランティア登録者のべ数】 | 現状 | 平成28年度 | 合計3,819人 | | | |
| | | 目標 | 平成33年度 | 合計3,850人 | | | |

基本目標Ⅱ 安心して暮らせる地域づくり

施策3 協働による福祉社会の推進

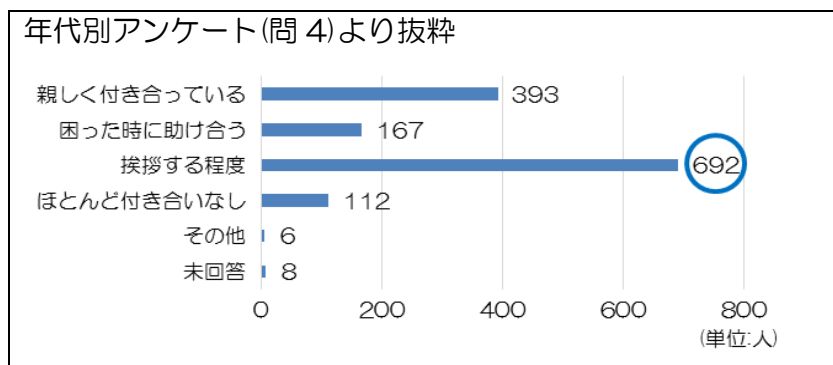
Ⅱ-3-(5) 地域に合った地区社協活動の推進

第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

福祉課題解決のための地域福祉活動の中心として、地域(旧小学校単位)では地区社会福祉協議会(以下地区社協)が民生委員・児童委員、福祉推進員を始め、自治振興会、老人クラブ、PTA等各種団体と事業を通して連携して活動しています。活動の上、地区社協の知識向上のために、地区社協会長及び事務局長会議の開催(年4回)を通して地区社協の情報交換、地区社協役員等先進地視察研修や講座に参加しています。

ニーズと課題

住民の繋がりへの再構築



複雑化多様化した困難な事例は多岐にわたる一方、隣近所との関係は「付き合いがない」「挨拶程度」が58.3%と希薄化しており、地域福祉課題解決に向けた働きかけが急務と考えられます。

今後の取り組み

地区の福祉活動の中心となり地区社協の役割を発揮するには、自治振興会ははじめ民生委員・児童委員、福祉推進員、各種団体との連携を密に行うことで地区の体制を整備強化し、地域福祉課題解決に取り組み、それに応じて、他分野(企業や商店、各種団体など)とも連携した地域づくりを推進して地区社協の基盤強化を図ります。

今回の地域福祉活動計画策定の機会に、地区社協の事業や財源の見直しと行政や市社会福祉協議会と目標や方向性を一体化し、且つ、地域の福祉活動を共有できる地区福祉活動計画の策定をします。

| 具体的 取り組み | 方法 | 2 | 3 | 3 | 3 | 連携団体 |
|------------------------|--|----|----|----|----|---|
| | | 9 | 0 | 1 | 2 | |
| | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 |
| 拡充 地区社協の基盤強化 | 各地区の実情に応じてニーズや課題を認識し、必要な地域福祉活動について、地区社協が中心となり住民主体の地域福祉のまちづくりを目指します。市社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカー(地域福祉専門職)と連携して推進します。 | | | | | 市社会福祉協議会 自治振興会 民生委員児童委員 福祉推進員 ボランティアサポーター |
| 地域福祉活動の財源確保 | 地区社協助成、共同募金活動等を地区福祉活動計画の策定を機会に見直しをして、福祉財源の確保と適切な活用に努めます。 【共同募金目標額】 現状 平成28年度 目標 平成33年度 | | | | | 市社会福祉協議会 富山県共同募金会 魚津共同募金委員会 |
| 地区社協活動計画の推進 | 市社会福祉協議会が計画策定手順書を作成します。地区社協は、地域福祉座談会などで聞いた意見を計画にして住民が協働したまちづくりに活かします。毎年度、評価と見直しをする場を持ちます。 平成28年度に13地区/全13地区実施 | | | | | 地区社協 市社会福祉協議会 各種団体 |

Ⅱ-4-(6) 高齢者・障がい者・子育て世代への生活支援の充実

施策4 福祉サービス基盤の充実

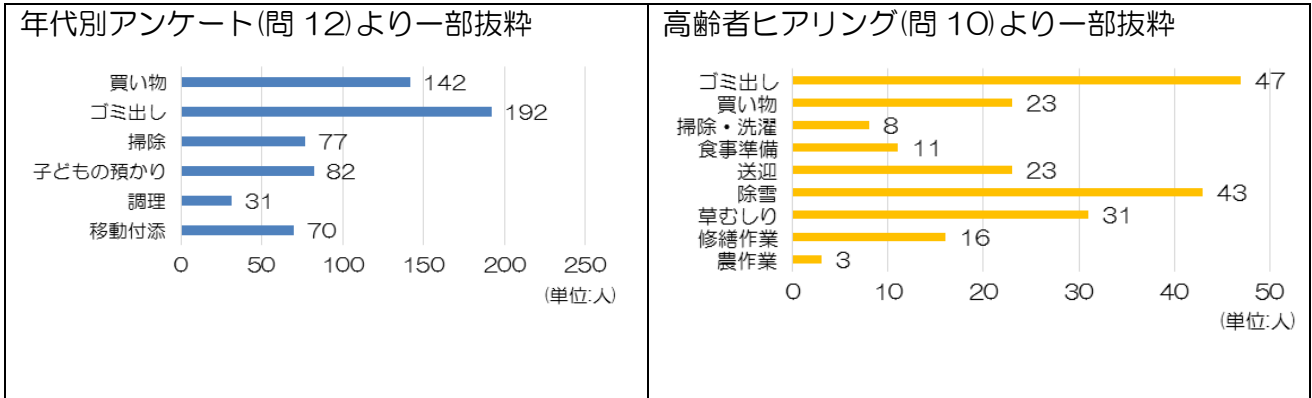
第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

介護保険サービスが必要な方には適切な制度の活用が望まれますが、昔からなじみの隣近所のちょっとした助けがあれば、今まで通りの生活が可能になる方が大勢います。ケアネット活動は、要支援者に対して隣近所だからこそ助けられるゴミ捨てや買い物、声掛けなどを、民生委員・児童委員や福祉推進員、自治会等の長らとともにみんなであたたかく支える町内圏域の支え合いの形式をいいます。

生活課題対策として、医療機関等の通院を車いす対応の車両で送迎するサービスや、市社会福祉協議会保有の福祉バスを地区や福祉団体等に貸し出す外出支援サービスを実施しています。配食サービスは上中島、上野方、経田地区において、住民のボランティアグループによる手作り弁当を民生委員・児童委員が見守りを兼ねて配っています。また、除雪に関して、ボランティア及び企業に対応していただき高齢者などから感謝の言葉をいただいています。買い物の課題に対しては、平成26年度から調査を始め、大町、片貝、西布施地区の地区社協を中心として地域の実情に応じた買い物サービスが展開されており、現在定着しつつあります。

ニーズと課題

買い物サービスの充実 移動手段や移送サービスの確保

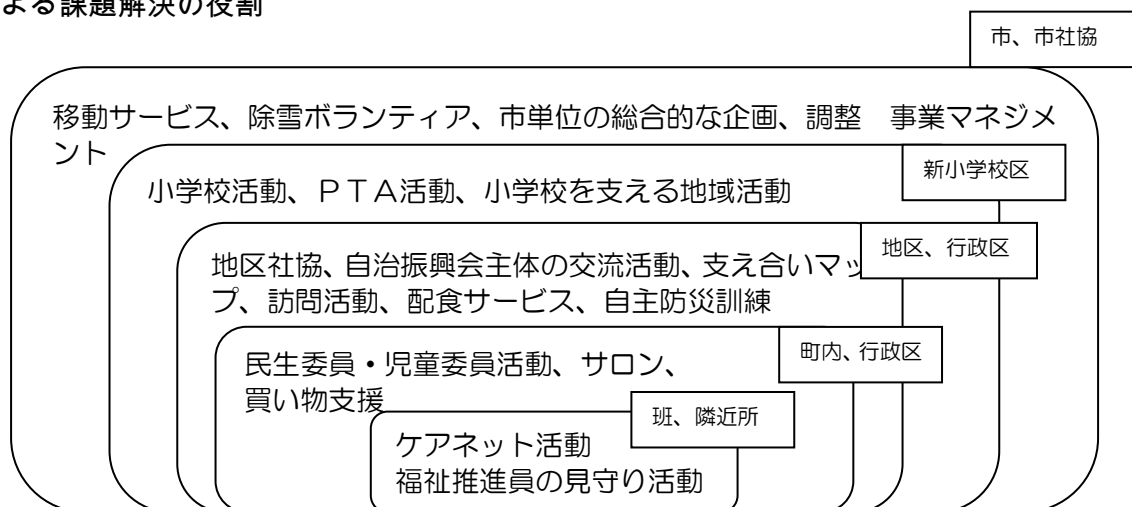


年代別アンケート、高齢者及び障がい者のヒアリング調査、そして地域福祉座談会においても、日常生活に基づくちょっとした支援の充実を求める声があがっていました。地域福祉座談会で取り上げられることが多かった買い物支援については、移動の付添や移動手段などと併せて検討する必要があります。

今後の取り組み

地域課題解決に向けた地域福祉活動が地区社協はじめ住民主体の取り組みとなることが基本となります。その中で、町内単位におけるケアネット活動の更なる充実とともに、地区圏域の住民の取り組みや市全圏域で解決する取り組むべき事業があり各圏域にあった対応を推進します。

各圏域による課題解決の役割



| 具体的 取り組み | 方 法 | 2 | 3 | 3 | 3 | 連携団体 | |
|--|---|--|---|---|---|------|--|
| | | 9 | 0 | 1 | 2 | | 3 |
| | | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | |
| 拡充 ケアネット活動 の充実 | 高齢者、障がい者、子ども、生活困窮者等で支援の必要な方に関わる住民を増やし、支え合いの体制を充実させます。また、住民と関係機関との連携を図ります。 | | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 民生委員児童委員 専門職 |
| 拡充 生活支援サービス の推進(移送、 配食、買い物他) | 外出支援体制づくり 車いすの障がい者移送支援や福祉バス貸出しを継続して外出の機会を増やします。 【障害者移送サービス年間利用件数】 現状 平成28年度 目標 平成33年度 【福祉バス貸出し件数】 現状 平成28年度 目標 平成33年度 | | | | | | 市社会福祉協議会 福祉センター |
| | | 充 実 | | | | | |
| | | 継 続 | | | | | |
| | | 合 計 4 6 0 件 合 計 5 0 0 件 合 計 4 6 件 合 計 1 0 0 件 | | | | | |
| | | | | | | | |
| | 配食サービスの充実 配食ボランティアが一人暮らし高齢者などに食事を作り、地域で活躍する場であり、民生委員・児童委員の訪問活動でもある配食について、各地区の活動の特性を活かした拡充を図ります。 【配食サービス数】 現状 平成28年度 目標 平成33年度 | | | | | | 市社会福祉協議会 民生委員児童委員 配食ボランティア 地区社協 学童 ボランティア 市 |
| | 強 化 | | | | | | |
| | 1, 4 0 0 食 1, 5 0 0 食 | | | | | | |
| | 子育てサポートの充実 一時的に子供を預けたい方のサポートをします。 | | | | | | 市社会福祉協議会 ファミサポ依頼 会員・協力会員 市 |
| | 継 続 | | | | | | |
| | その他生活支援サービスの創出 「Ⅲ-6-(10)包括ケアシステムの推進」における生活支援コーディネーター事業とともに、地域の実情に合わせたサービスの創出に努めます。 | | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 企業、商店 商工会議所 ボランティアサポーター 社会福祉法人 民生委員児童委員 |
| | 検 討 協 議 を 重 ね て 推 進 | | | | | | |

基本目標Ⅲ 地域で支え合うしくみづくり

施策5 人権を尊重した相談体制の推進

Ⅲ－5－（7）住民が相談しやすい体制の整備

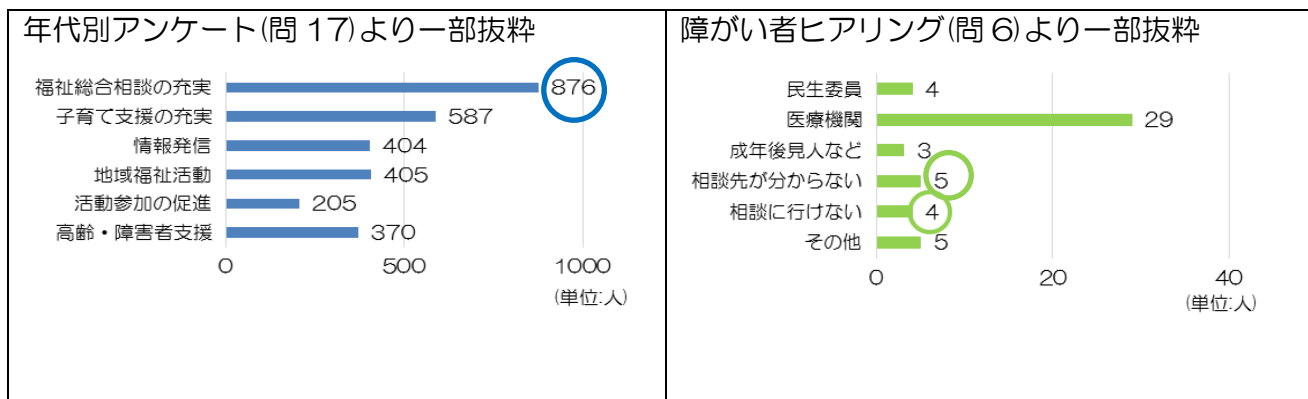
第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

行政機関の相談窓口を含め、高齢、介護、障がい、児童、法律など様々な悩みに応じた相談機関があります。

個人、地区の課題には、地区担当のコミュニティソーシャルワーカー(地域福祉専門職)が個人情報に留意しながら相談に応じ、課題を解決するための支援を行っていますが、更に、アウトリーチ(訪問体制)が求められています。

ニーズと課題

相談機能の充実



年代別アンケートにおいて、「福祉総合相談の充実」を回答に挙げた方が多くいました。高齢者や障がい者ヒアリングにおいて、「相談先が分からない」「相談に行けない」と回答した方も数名おられました。地域には何らかの理由で相談窓口にアクセスできない方(情報弱者など)もおられます。

今後の取り組み

誰もが気軽に相談できる身近な窓口がありわかりやすいことで、悩みの糸口が見いだせます。そのためには、多様化複雑化した問題に適切に対応できる専門職の資質向上と多職種多機関が連携した地域拠点型、地区担当による訪問型、総合相談の地区拠点型と、相談しやすく幅広い相談を受けられる体制の促進を図ります。

| 具体的 取り組み | 方法 | 2 | 3 | 3 | 3 | 連携団体 |
|--|---|----|----|----|----|---|
| | | 9 | 0 | 1 | 2 | |
| | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 |
| 拡充 複数の課題を包括的に多職種連携で取り組む機能の強化 | 複雑化多様化した問題にも専門職の資質向上を図り、多職種対応を促進します。 | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 民生委員児童委員 福祉推進員 市 |
| 新規事業 地域拠点型相談体制構築 | 地区社協を中心とした福祉総合相談会を開設します。市社会福祉協議会などの専門職と弁護士などが相談対応をして身近な相談場所を設置します。 【相談会開催地区】 目標 平成 33 年度 | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 福祉総合相談センター 富山県福祉総合相談センター(弁護士) NPO法人富山成年後見人協会 |
| 拡充 CSWの地区担当制の推進 | 地区担当のCSW(地域福祉専門職)が訪問して、個人や地域の課題の相談に応じ、個別や地域のニーズを聞き取る機会を増やし、住民とともに実情に合った体制を住民とともに推進します。 | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 民生委員児童委員 福祉推進員ほか |

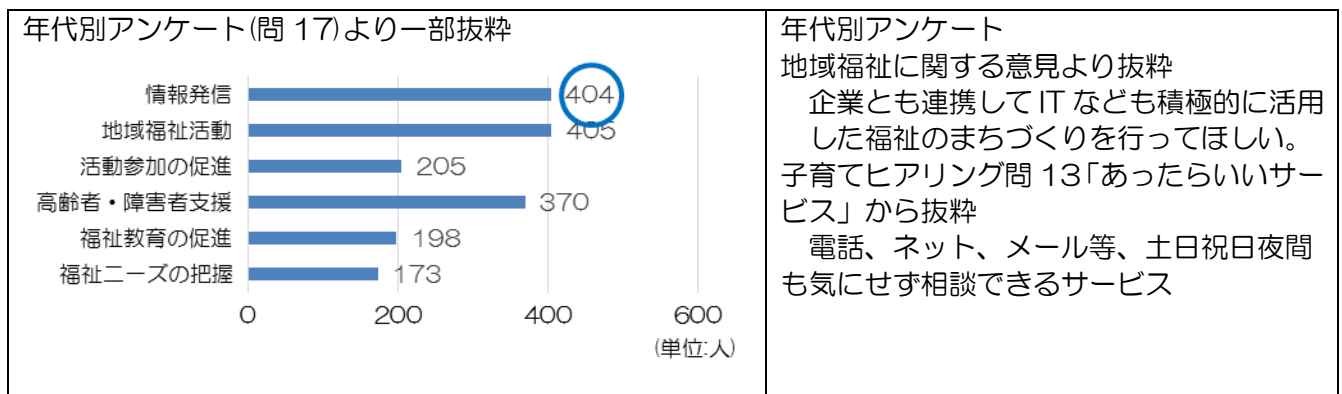
Ⅲ-5-(8) 情報のネットワークの共有化

第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

福祉の相談に対する情報は、市社会福祉協議会(隔月)などの広報誌やホームページを主としています。年代に応じて様々な広報媒体が利用されるようになってきました。必要な時に必要な福祉相談の情報が行き届くような広報活動の見直しが必要です。

ニーズと課題

関係機関との連携強化 情報発信の在り方



年代別アンケートにおいて、上記のような意見のように、情報を得られないことが理由で不利益な生活を強いられる方がいないよう、地域住民に対し、何が出来る専門機関であるのかをしっかりと情報発信していくことが重要です。

今後の取り組み

支援が必要な方が地域で自立した生活を営むためには、住民や世帯に応じた適切な支援が必要です。気軽に相談できる窓口が住民にわかりやすく情報提供される体制を必要としています。また、地域福祉活動を積極的に実践している団体の活動を紹介する機会もより多く発信します。

| 具体的 取り組み | 方法 | 2 9 年 度 | 3 0 年 度 | 3 1 年 度 | 3 2 年 度 | 3 3 年 度 | 連携団体 |
|-------------|--|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 広報活動の活性化 | 社協だよりやホームページの発信の仕方にも適切な時期や媒介の工夫、具体的な情報をまとめたパンフレットの作成など、住民に情報が行き届く情報発信の在り方に改善します。 | | 協 議 | 充 実 | 充 実 | 充 実 | 市社会福祉協議会 報道機関 |

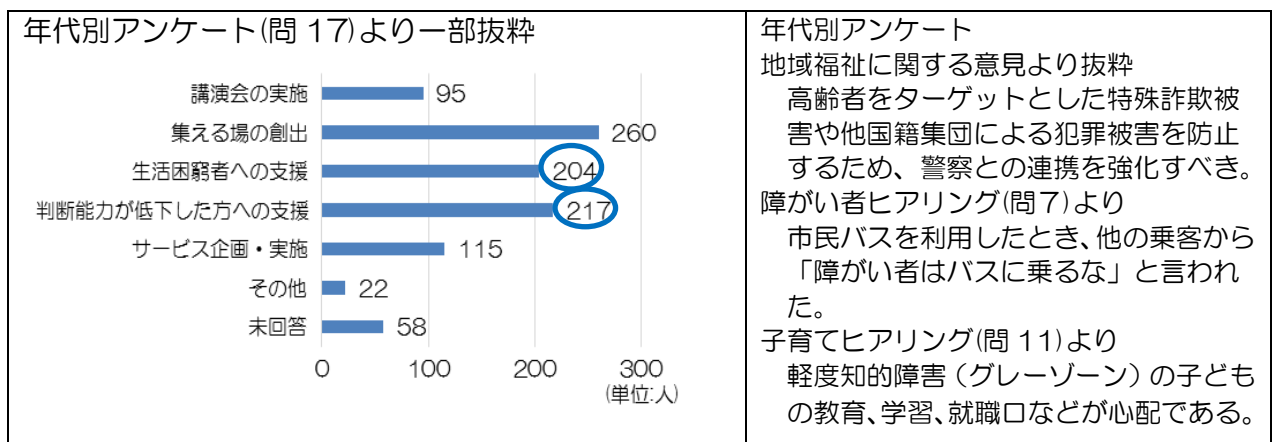
Ⅲ－５－（９）権利擁護の促進

第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

障がいがあったり認知症を患ったりすると、必要な介護や福祉サービスなどの契約についての判断や日常的な金銭管理、重要な財産管理を行うことが難しくなります。また、高齢者を狙った訪問販売や電話の勧誘などの悪質商法も多発しています。各権利擁護の制度を活用して住み慣れた地域で安心して過ごすことができます。

ニーズと課題

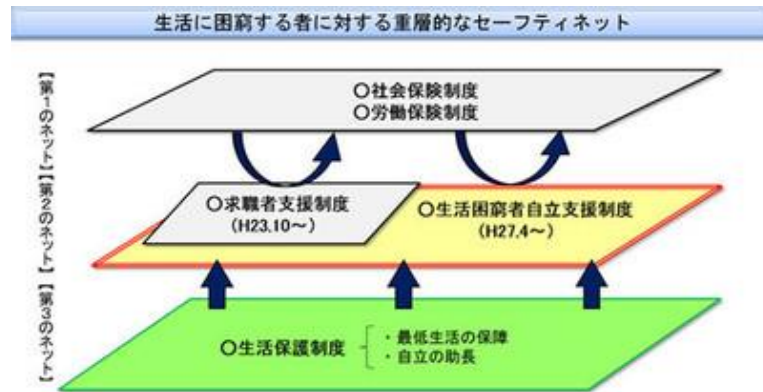
認知症高齢者や障がい者に対する理解の促進
差別的言動の排除



年代別アンケートにおいて、判断能力が低下した方への支援、生活困窮者への支援の充実を求める回答が見られました。認知症高齢者への対応は地域における大きな課題の一つであると言えます。判断能力が低下した方や障がいを持つ方等が平等に過ごせるよう、権利擁護の啓発の充実が必要です。

今後の取り組み

少子高齢化や血縁関係、近隣関係の希薄化に伴い、社会的孤立、消費生活被害が急増しています。判断能力が不十分な方や経済的に生活困窮に陥った方が、差別や虐待のない自立した生活を営む権利が擁護されるために、適切なサービス利用や支援が受けられるよう権利擁護の啓発に取り組みます。



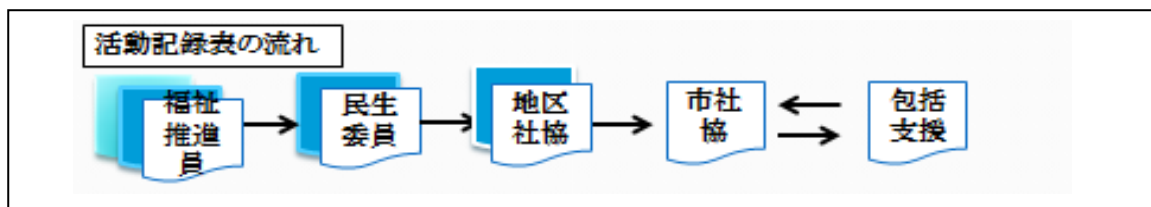
| 具体的 取り組み | 方法 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 連携団体 |
|--------------------|---|--------------|----|----|----|----|--|
| | | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | 年度 | |
| 日常生活自立支援事業 | 日常生活の判断能力に不安がありながら、在宅で生活している方または在宅で生活する予定の方に、福祉サービスの利用手続きや生活費の管理、年金証書などの大切な書類の預かりなどのお手伝いをしています。 | 充実 | | | | | 市社会福祉協議会 県社協 市 サービス事業所 居宅介護支援事業所 |
| | 【日常生活自立支援事業契約者数】現状 平成28年度 目標 平成33年度 | 53人 60人 | | | | | |
| 法人後見推進事業 | 魚津市社会福祉協議会は、社会福祉法人として成年後見人等になり、個人で成年後見人等に就任した場合と同様に、判断能力が不十分な人の保護・支援を行います。また、成年後見制度の知識の啓発を図ります。 | 強化 | | | | | 市社会福祉協議会 市 |
| | 【法人後見推進事業受任数】 現状 平成28年度 目標 平成33年度 | 2人 4人 | | | | | |
| 生活福祉資金貸付事業 | 低所得者世帯などに対して、低金利または無利子での資金の貸し付けと必要な援助と指導を行い、経済的自立や生活意欲の助長促進、在宅福祉や社会参加を図り、その世帯の安定した生活を確保します。 | 充実 | | | | | 市社会福祉協議会 県社協 民生委員児童委員 市 |
| | 【生活福祉資金貸付事業相談者数】 現状 平成28年度 目標 平成33年度 | 839人 900人 | | | | | |
| 新規事業 リサイクルバンク事業 | 生活保護に至らないように共助で支えあう活動を事業とします。リサイクルバンク活動で集まった食糧や生活用品を生活困窮者へ緊急的に配給し、一時的な食糧支援などを行うものです。 | 充実 | | | | | 市社会福祉協議会 NPO法人 |
| | 【リサイクルバンク受付数】 目標 平成33年度 | 10人 | | | | | |

施策6 地域包括ケアシステムの推進

Ⅲ-6-(10) 包括ケアシステムの推進

第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

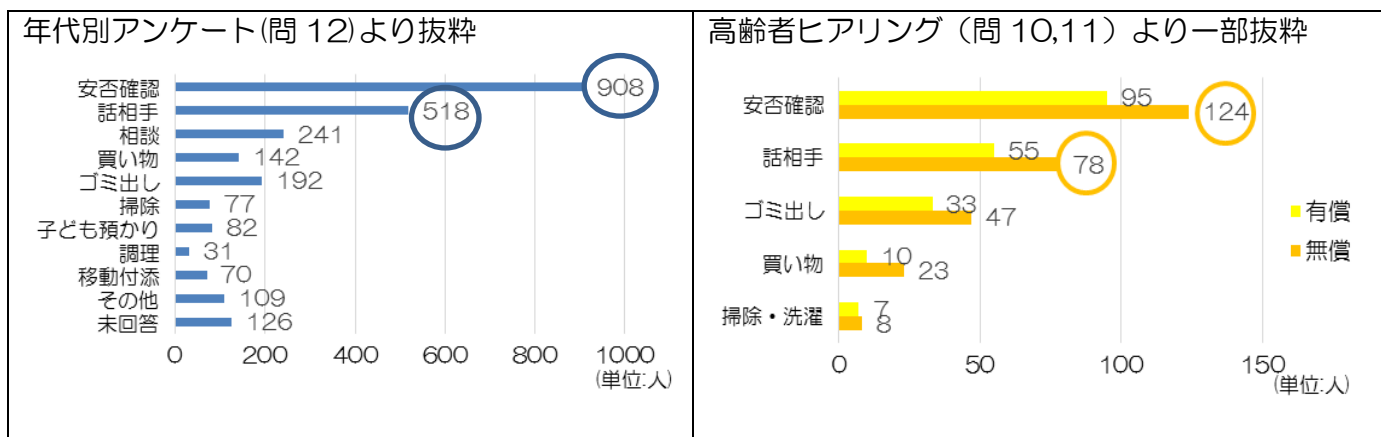
魚津市では平成8年から、小地域（50世帯又は町内に一人）に福祉推進員を配置して魚津市全域を網羅した地域福祉体制を構築しています。地区社協に所属して地区の福祉活動の協力や、ともに地区の社会福祉活動を実施する民生委員・児童委員と連携した要支援者の見守り安否確認を実施しています。その活動は、福祉推進員活動記録表を通して、市社会福祉協議会や市地域包括支援センターと連携して要支援者の早期発見早期対応、対象者に対する情報提供の基盤としています。



活動記録表は、秘密保持に注意を払い上記の順に報告されています。

ニーズと課題

地域における見守り体制強化



年代別アンケート及び高齢者ヒアリングの結果より、多くの地域住民が「安否確認」や「話し相手」をしてくれる人の存在を「重要である」と認識していることが分かりました。重層的に見守りを行う仕組みを作るなど何らかの対応を行い、今後、近隣住民同士が、お互いに声を掛け合い、「支え・支えられる」関係を地域の中で築いていくことが必要となります。

今後の取り組み

福祉推進員は地区社協に所属しており、地域福祉活動を担う人材として積極的な地域人材として社会参加します。また、市社会福祉協議会では、行政から魚津市生活支援コーディネーターを委託されており地域の「ニーズと取り組みのマッチング」「資源開発」「ネットワーク構築」の機能を役割としていますので、住民とともに生活支援介護予防サービスの提供体制の整備の推進を担います。

| 具体的 取り組み | 方法 | 2 9 年 度 | 3 0 年 度 | 3 1 年 度 | 3 2 年 度 | 3 3 年 度 | 連携団体 |
|-----------------------------------|---|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|---|
| 福祉推進員 活動の強化 | 地区社会福祉協議会、民生委員・児童委員等と連携した魚津市全体を網羅する地域の見守り安否確認の体制を充実します。地区社協に所属する地域福祉活動を推進するメンバーとして、有意義な地区の活動となるよう各地区の課題やニーズを共有し、地域力向上の一員とします。 | | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 民生委員児童委員 自治振興会 ふれあい・いきいきサロン |
| 生活支援・介 護 予 防 サ ー ビ ス の 充 実 | 介護用品を市社会福祉協議会で貸出しをして、在宅生活を安全に過ごすためのニーズに応えています。 【介護用品貸出件数】 現状 平成 28 年度 目標 平成 33 年度 | | | | | | 市社会福祉協議会 |
| 在 宅 医 療 介 護 連 携 の 推 進 | 福祉専門職と在宅医療、ケアネット活動が連携して、住み慣れた自宅での生活が継続できるように支援します。 | | | | | | 居宅介護支援事業所 障害者相談支援事業所 魚津市 |
| 生 活 支 援 コ ー デ ィ ネ ー タ ー 事 業 | Ⅱ-4-(6) 高齢者・障がい者・子育て世代への生活支援の充実と同じく、生活支援体制を構築するよう、コーディネーター機能を発揮します。 | | | | | | 市社会福祉協議会 地区社協 魚津市 各種団体 |

Ⅲ-6-(11) 災害に備えた取り組みの推進

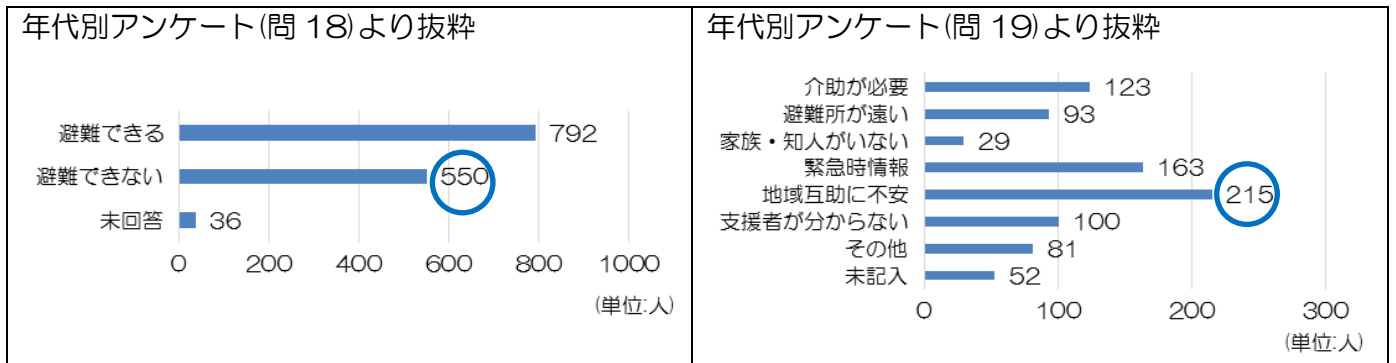
第3次地域福祉活動計画の取り組みと振り返り

各地区では、あんしんカード（いのちのバトン）の取り組みや町内単位でマップづくりに取り組む地区もあり、自治振興会他各種団体と連携した共助の住民主体の取り組みとなっています。しかし、あんしんカードの作成された年度や記入の仕方に統一性がなく地区によっては記載内容の再検討が必要となっています。

また、魚津市で災害が発生し、他市県からボランティアを受け入れる際には、市社会福祉協議会で災害ボランティアセンターを立ち上げて対応する役割があります。毎年、災害ボランティアセンターの立ち上げ訓練を実施するとともに、運営マニュアルの検証をして災害時に備えています。

ニーズと課題

災害に対する備えの充実



障がい者ヒアリングにおいて「避難できないので諦める」「一般的な避難所での生活は困難と考えている」といった意見が聞かれました。また、地域福祉座談会でも「援護を必要とする方がどこにいるのか把握できていない」といった意見もありました。年代別アンケートでは、緊急時の情報不足や地域互助に対する不安などから 40%の地域住民が「避難できない」と回答しています。アンケートやヒアリングの結果を総合的に勘案すると、地域互助の弱さが不安の根底にあるものと思われます。

今後の取り組み

災害時など緊急事態の際の迅速かつ的確な要配慮者支援対策は、すべての住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続ける大切な条件です。そのため、日常的な見守り活動や助け合い活動の推進を図り、緊急時災害時に備えた具体的連携体制の整備をします。

| 具体的 取り組み | 方法 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 連携団体 |
|-----------------------------|---|---|---|---|---|---------|---|
| | | 9 | 0 | 1 | 2 | 3 | |
| | | 年 | 年 | 年 | 年 | 年 | |
| 拡充 あんしんカードの整備促進 | 地区のあんしんカードの書式、配布対象者などを見直して、活用しやすいカードづくりをします。消防隊員と連携したカードを作成し家族間、近隣などと緊急時の連絡体制を整えます。 | 検 | 見 | 整 | 備 | 整 | 市社会福祉協議会 地区社協 自治振興会 民生委員児童委員 福祉推進員 魚津消防署 |
| | 【あんしんカード配布地区数】 現状 平成 28 年度 目標 平成 33 年度 | | | | | 9 13 | |
| 新規事業 支えあいマップ活用の推進 | あんしんカードと連携した支えあいマップを作成して、地域の支え合いの体制に活用します。 | 策 | 模 | 強 | 化 | 強 | 市社会福祉協議会 民生委員児童委員 福祉推進員 自治振興会 |
| | 【支えあいマップ活用地区数】 現状 平成 28 年度 目標 平成 33 年度 | | | | | 2 13 | |
| 災害救援ボランティア活動体制強化 | 災害時のボランティアセンターに役立つマニュアルの再検討をして、訓練を重ねて市社会福祉協議会職員間、ボランティアで共有を図ります。 | | | | | 整 | 市社会福祉協議会 ボランティアサポーター 地区社協 魚津市 自治振興会 |

第5章 第1次地区(小地域)福祉活動計画の概要

地区社協は、それぞれ独立した任意の団体ですが、各地区の住民主体・住民参加の地域福祉活動を推進する組織です。本計画では、地域福祉座談会を通じて、各地区で地域課題を再確認し、その解決に向けた今後5年間の方向性を地区社協で地区(小地域)福祉活動計画としてまとめました。

以下、地区(小地域)福祉活動計画策定の意義です。

(1) 中長期的な見通しを持って、段階的・継続的に取り組んでいくことができます

(2) 活動の優先順位や重点取り組みが明確にすることができます

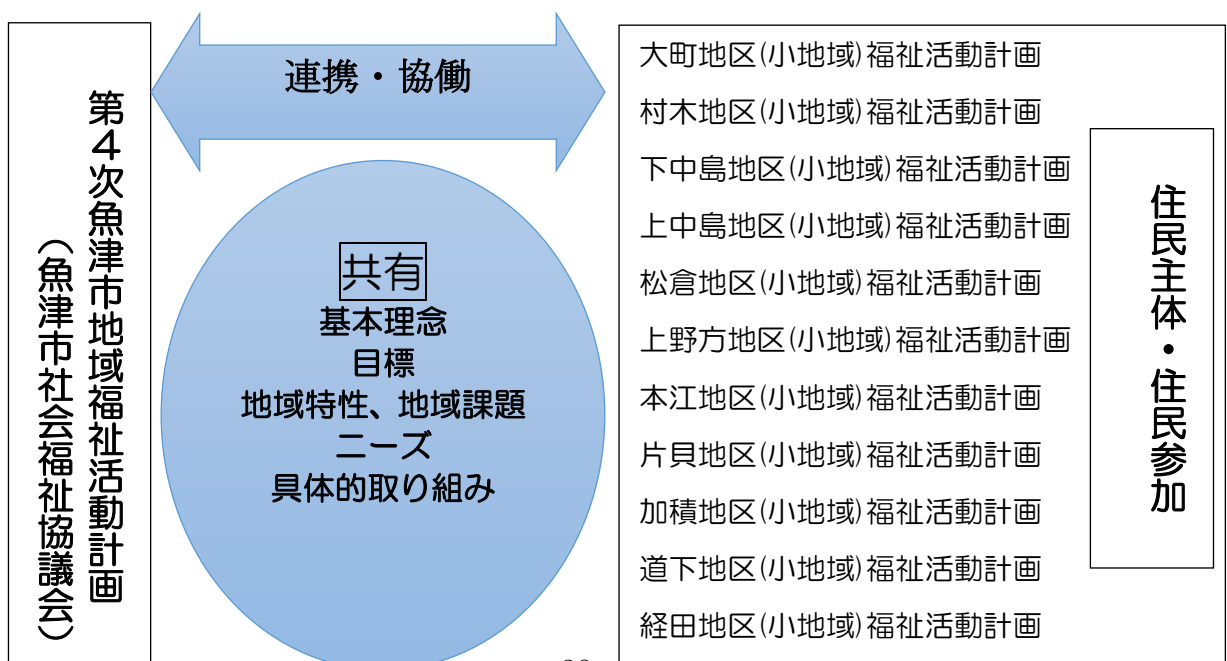
(3) 地域課題と目標を関係者で共有し、同じ方向を向いて協働することができます

(4) 計画を公表することで、地域の福祉活動について、広く地域住民の理解と協力が得られます

(5) 活動がうまく展開されてきたか振り返り、次の課題を明らかにすることができます

(6) 計画づくりの過程で、人材づくりと関係団体の連帯が強くなります

市社会福祉協議会は、地区(小地域)福祉活動計画を推進するために、地区社協を地域福祉推進の基礎組織と考え、車の両輪となって協働し、計画の推進を図ります。



第1次大町地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) **ひとにやさしい おおまち**



「老遊の館」の様子

基礎データ(2016年4月1日現在)

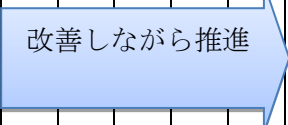
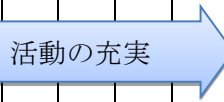
| | |
|----------------|---------|
| 人 口 | 2,671人 |
| 行政区数 | 35区 |
| 世帯数 | 1,174世帯 |
| 年少率 | 5.7% |
| 高齢化率 | 45.7% |
| 民生委員児童委員数 | 11人 |
| 福祉推進員数 | 35人 |
| 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 200人 |
| ふれあい・いきいきサロン数 | 9ヶ所 |

| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 |
|--|-------------------------------------|-----------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・大人も子どもも挨拶ができる ・たてもん祭りや神輿祭は活気がある ・米騒動発祥の地である ・子どもや若い世代がいない ・地域で人を育てる意識が必要である | <p>元気な おおまちを担うひ とづくり</p> | 福祉推進員活動の拡充 地区ケース検討会の充実 |
| | | 役員等ふくし視察研修会 |
| | | ④ 研修会や情報交換会に出席して地域福祉活動に関心を持つ人材の増加 |
| | | ④ ケアネット活動を通じた近隣住民のささえあいの推進 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・神社仏閣が多く歴史がある ・町内のまとまりがある ・家が密集している ・若い世代の公民館離れが顕著 ・若い人が住みたくなる行事や仕掛けが必要 ・地域住民の交流が不足 | <p>子どもから 高齢者までの つながりづくり</p> | ⑤ 高齢者の集い「老遊の館」の充実 |
| | | ④ ふれあい・いきいきサロンの拡充、敬老会の開催 |
| | | 「福祉おおまち」発行 |
| | | 子どもが“ただいま”を言える集いの場づくり |
| | | 友愛訪問「おはぎ作り」 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・公民館を中心に活動が活発である ・老人だけの家が多い ・買い物に不便である | <p>支えあいの しくみづくり</p> | ④ 「上ロマルシェ」買い物支援の充実 |
| | | ④ 「わが家の緊急カード」の周知徹底 |

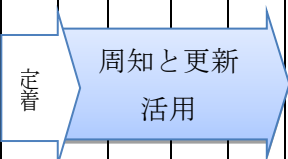
第 1 次大町地区（小地域）福祉活動計画

重点取り組み

| 重点実施取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|---|---------|---------|---------|---------|---------|---|
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p>「老遊の館」の充実</p> <p>昭和 61 年に大町地区婦人会が、高齢者の憩いと会食の交流の場としてスタートした「老遊の館」は、高齢者の好評を得て、現在も毎月継続して実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の集いにあった催しや交流を他団体と連携して企画します。 ・公民館近くの高齢者の参加が多いので、他町内の高齢者も参加できるように検討、工夫します。 ・民生委員・児童委員等と連携して見守りを兼ねた交流の場とします。 | | | | | | <p>市社会福祉協議会 公民館 民生委員・児童委員 ボランティアグループ「かっこうの会」 ボランティアグループ「なでしこの会」</p> |
| <p>「上口マルシェ」買い物支援の充実</p> <p>魚津市で一番高齢化が進んでいる大町地区に、平成 27 年度から、買い物できる店が歩いて行ける場所がないというニーズの対策として、上口町内実情に合った市場形式「上口マルシェ」をオープンさせました。住民のニーズに应运え、住民自ら店と交渉して地元会館に陳列、販売、会計処理まで模索しながら継続しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の要望を聞きながら、上口に合った買い物しやすいマルシェとなるようフットワークよく改善していきます。 ・安定した収入が得られ、町に定着できるよう、町全体で体制の整備をします。 ・担い手不足であることから、理解者を増やします。また、安定すれば有償ボランティアとします。 | | | | | | <p>市社会福祉協議会 町内会 自治振興会 地区のボランティア 民生委員児童委員 大野商店、鹿本商店、 ヒヨドリの会、石崎 蒲鉾、てくてく</p> |
| <p>「我が家の緊急カード」の周知徹底と活用</p> <p>高齢者の一人暮らしが多く、緊急時の時の対応を整備して、平成 28 年度から高齢者宅に配布し始めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「我が家の緊急カード」の活用について、大町地区全体で把握して活用します。そのための周知徹底をしていきます。 | 定着 | | | | | <p>民生委員児童委員 福祉推進員 区長 自治振興会</p> |



「上口マルシェ」の様子



第 1 次村木地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) 村木の福祉は みんなで楽しく 少しずつ



ユネスコ無形文化遺産「タテモン行事」

| 基礎データ(2016年4月1日現在) | |
|--------------------|---------|
| 人 口 | 2,888人 |
| 行政区数 | 23区 |
| 世帯数 | 1,236世帯 |
| 年少率 | 8.0% |
| 高齢化率 | 41.9% |
| 民生委員児童委員数 | 9人 |
| 福祉推進員数 | 29人 |
| 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 208人 |
| ふれあい・いきいきサロン数 | 7ヶ所 |

| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 |
|--|-----------------------------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 役員のなり手がいない ・ 自治会長に大きな負担がかかる | やさしい村木 の人づくり | 福祉研修会の充実 |
| | | 若い世代の行事参加促進 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ たてもん祭りに向けて一致団結する ・ 隣近所仲よしである ・ 地区懇談会を開催して見守り対象者の様子を町内で共有している ・ サロンの参加者が減っている ・ 若世代の流出が著しく、高齢化が加速している | 子どもから高齢者 までつながる 地域づくり | ふれあいいきいきサロンの開催回数の増加 |
| | | ④ 小地域福祉懇談会の推進 |
| | | ケアネット活動の強化 |
| | | 子育てサロン「たんぽぽ」の充実 |
| | | 高齢者の集い「友遊の集い」(毎月開催) 充実 |
| | | ④ 「男性の料理教室」の推進 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院が多い、中央通り商店街がある ・ 家が密集して隣の変化に気づきやすい ・ 見守りをする人が増える | 安心安全な 村木づくり | ④ 小学生と高齢者の集い |
| | | 総合公園開催の「もみじ集会」「ペタンク大会」 |
| | | 福祉推進員、民生委員児童委員による見守り活動の推進 ケース検討会の充実 |
| | | ④ あんしんカードの活用 |

第1次村木地区（小地域）福祉活動計画

重点取り組み

| 重点実施取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|---|---------|---------|---------|---------|---------|--|
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p>小地域懇談会の推進</p> <p>小地域の課題の早期発見、早期対応、孤立防止を目的に、年1回、行政区単位で、民生委員児童委員、福祉推進員、自治会長、町内の有志、地区社協役員などで要支援者の情報共有と見守りや活動の仕方を検討しています。</p> <p>①平成29年度から、検討メンバーに若い世代も入れます。</p> <p>②平成31年度には、支え合いマップづくりを実施し小地域の支援体制を具体的に表し、地域活動に活かします。</p> | | | | | | 民生委員児童委員 自治会長 福祉推進員 市社会福祉協議会など |
| <p>男性の料理教室の拡大</p> <p>男性高齢者の孤立防止、交流の場の提供を目的に料理教室を年3回開催して4年目となります。漁師町の特性を活かした魚の食材を活かし、講師は漁協会婦人部に依頼している。今後、事業の拡大を図ります。</p> <p>①高齢者だけでなく若い世代の男性の参加を募ります。</p> <p>②女性から参加の要望が挙がっている。女性や子どもと一緒に料理をする回を設けます。</p> <p>③山間部の地区と料理教室を通して交流します。</p> | | | | | | 公民館 漁師 ボランティア |
| <p>「もみじ集会」「友遊サロン」等世代間交流の推進</p> <p>毎秋に、総合公園にて、高齢者と小学生の屋外交流事業「もみじ集会」を継続実施する。</p> <p>昭和63年から毎月、公民館で開催している高齢者の集い「友遊サロン」は、食改や民生委員児童委員、ボランティア、他団体、小学生や保育園児との交流の機会となっています。</p> <p>①小学校が統合されて、地区に小学校がなくなっても、一層、世代間の交流の機会を充実します。</p> <p>②ふれあい・いきいきサロン、子育てサロンの充実を図ります。</p> | | | | | | 自治振興会 食生活改善推進員 民生委員児童委員 女性の会 ボランティア 小学校 保育園 公民館など |

内容を検証して
推進

前年度から継
続・拡大



男性料理教室の魚のさばき方


学校統合しても
継続実施

第1次下中島地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) **みんなで みんなが
明るく・楽しい・元気な 地域をつくろう**

| | | 基礎データ(2016年4月1日現在) | |
|--|--------------------|---|---|
|  <p style="text-align: center;">西魚津駅ホームの子どもたちの絵</p> | | 人 口 | 3,000 人 |
| | | 行政区数 | 16 区 |
| | | 世帯数 | 1,095 世帯 |
| | | 年少率 | 14.1% |
| | | 高齢化率 | 29.8% |
| | | 民生委員児童委員数 | 8 人 |
| | | 福祉推進員数 | 19 人 |
| | | 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 98 人 |
| | | ふれあい・いきいきサロン数 | 6ヶ所 |
| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・水族館、ミラージュランド、西魚津駅がある ・買い物がしやすい ・隣の住民がわからない、近所の人と会わない ・除雪の心配がある | 下中島を元気にする ひとづくり | <ul style="list-style-type: none"> ④ 下中島の福祉力向上 ④ わが町の玄関口西魚津駅をきれいにしよう！(おもてなし大作戦！多世代ボランティア活動) ④ ケアネット活動の拡大 | |
| | | 福祉推進員の地域活動の充実 (地区ケース検討会の年2回開催) | |
| | | 安心して暮らせる 下中島の地域づくり | <ul style="list-style-type: none"> ④ 交流の場づくりの拡大 子育てサロン(年12回) ふれあい・いきいきサロンの推進 |
| <ul style="list-style-type: none"> ④ 世代間交流の促進 友愛訪問、敬老会など小学生と一緒に訪問する一人暮らし高齢者おはぎ配食や交流事業の促進 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・災害時の方法の確立が必要である | 下中島の しくみづくり | <ul style="list-style-type: none"> 広報誌「社福しもなかじま」年2回発行を通じた情報発信 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ④ あんしんカードの改善による安心体制整備 | |

第 1 次下中島地区（小地域）福祉活動計画

| 重点取り組み | | | | | | |
|---|--|---------|---------|---------------|---------|--|
| 重点実施取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p>下中島の福祉力向上</p> <p>民生委員児童委員、福祉推進員などの福祉関係者の福祉知識や意識の向上、技術の習得、連携強化を図ります。また、行事や近隣付き合いから担い手を発掘し、地域貢献する楽しさとともに感じて、推進できる活動の仲間を増やします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視察研修の開催、情報交換会や講座の受講 ・ 行事参加の呼びかけ、会議参加者の増加 ・ 福祉推進員の地域福祉活動の積極的参加 ・ ケアネット活動の拡大 | | | | 充 実 | | <p>市社会福祉協議会 民生委員児童委員 福祉推進員 自治振興会 町内会、地区他団体</p> |
| |  | | | | | |
| 視察研修の様子 | | | | | | |
| <p>わが町の玄関口西魚津駅をきれいにしよう！（おもてなし大作戦！多世代ボランティア活動）</p> <p>魚津水族館などの玄関口である西魚津駅は、無人駅で整備がされていなかったことから、下中島地区社協では、平成 26 年度にホームに小学生が描いた水族館の魚の絵を掲載して明るく出迎えられる工夫をしました。また、小学生、保育園児、父兄、「にいなな会」のボランティアグループで俳句の掲示、花の植え込み水やり、清掃活動を継続的に実施します。</p> | | | 調 整 | 充 実 | | <p>市社会福祉協議会 ボランティアグループ 「にいなな会」 小学生、保育園児、父兄 富山地方鉄道 魚津水族館</p> |
| <p>交流の場づくりの拡大</p> <p>高齢者のふれあい・いきいきサロンや子育て世代の子育てサロン等、孤立防止を目的に交流の場の促進を図ります。少子高齢化と核家族化が進む中、子どもから高齢者の誰もが交流する場を創ります。 平成 33 年度目標ふれあい・いきいきサロン数 10 箇所</p> | | | | 拡 大 | | <p>市社会福祉協議会 民生委員児童委員 福祉推進員 ふれあい・いきいきサロン 老人クラブ 子育てサロン 公民館</p> |
| <p>世代間交流の促進</p> <p>小学生や保育園児との交流の場を増やします。また、友愛訪問「おはぎ配食」などのように、小学生が父兄や食改やボランティア、民生委員児童委員と一緒におはぎ作りをして、作ったものを高齢者に届けて声掛けをする活動を充実させます。</p> | | | | 振り返りながら 促進 | | <p>市社会福祉協議会 民生委員児童委員 ボランティア 福祉推進員 小学校、保育園 公民館</p> |

第1次上中島地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン)

㊦ ^われあいの話と ⌚ ^わらしの和で ⊕ ^わあわせ地域の輪




子育てサロンの様子

基礎データ(2016年4月1日現在)

| | |
|----------------|--------|
| 人 口 | 1,459人 |
| 行政区数 | 12区 |
| 世帯数 | 474世帯 |
| 年少率 | 10.1% |
| 高齢化率 | 32.7% |
| 民生委員児童委員数 | 5人 |
| 福祉推進員数 | 14人 |
| 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 40人 |
| ふれあい・いきいきサロン数 | 9ヶ所 |

| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 |
|---|----------------------------|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • 高齢になっても元気な人が多い • 役員のなり手がいない | 地域を元気にする 人をつくる 取り組み | 役員視察研修会 いきいきサロンの運営に携わる人材の育成 とサロンリーダーの交流機会 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 新川大根やブルーベリー農園など農産物が盛ん。 • 戦国のろし祭りがあり地域全体で実施 • 三世代交流が多い(公民館活動) • ご近所が仲良し • 小学校統合後の子供たちの三世代交流参加機会の確保が必要 • 三世代交流を地域全体に広げる取り組みが必要 | 地域の絆を深める 取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ⊕ 男性と女性が共に参加できるいきいきサロン 子育てサロンでの3世代のつながり 子供も高齢者も参加できるサロンの実施 ⊕ 配食サービス(月2回) 配食ボランティアへの子供と母親の参加 広報誌の発行(年1回) 男性料理教室(年1回) 米寿者訪問 一人暮らし高齢者へおはぎプレゼント(年1回) 上中島祭りの継続 カローリング大会(年1回) 三世代交流事業(教育振興会、老人クラブ、JA女性部との連携) 田植え、稲刈り、しめ縄作り ケース検討会(年3回) |
| <ul style="list-style-type: none"> • 蛍が飛び交う自然が多い • お互いに見守りをしている • 病院や介護施設がない | 安心して暮らせる 地域をつくる 取り組み | <ul style="list-style-type: none"> ⊕ 福祉推進員の活動の充実「いのちのバトン」 防災対策の充実「災害時の避難対策」 ⊕ 一人暮らし高齢者、障がい者世帯のマップ を活用した支え合いの体制づくり ケアネット活動の充実 |

第 1 次上中島地区（小地域）福祉活動計画

| 重点取り組み | | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|--|-------------|---------------|---------|---------|---------|---|------|
| 重点実施取り組み | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | | |
| <p>男性と女性が共に参加できるいきいきサロン 上中島地区では9か所のサロンが活動していますが、男性と女性が一緒に楽しんでいるサロンは1か所のみであり、引きこもりに陥りやすい男性高齢者の交流の場を作ることを目的とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男性の好むレクリエーションや体操を取り入れます。 ・サロン代表者等として役割を持ち参加します。 ・男性だけのサロンを立ち上げます。 <p>平成 33 年度 男性の在籍するサロンの数 5 か所</p> | 準備 | 振り返りながら | | | | 市社会福祉協議会 民生委員・児童委員 福祉推進員 ふれあい・いきいきサロン代表者 老人クラブ 町内会 | |
| <p>配食サービスの配食ボランティアへの子どもと母親の参加 平成7年から、月2回、上中島公民館でボランティア登録した児童9名と大人31名がバランスのとれた弁当を作ります。一人暮らし高齢者などへ民生委員児童委員と一緒に声掛けを兼ねて配ります。</p> <p>今後は、登録児童とボランティアに、新たに母親にも参加を募り、ボランティアに係る世代を充実させ、地区内のボランティア拡充を図ります。また、この体制を次の課題にも活かせるよう整備します。</p> | 昨年度からの継続を拡大 | | | | | 配食ボランティア（児童含む） 民生委員児童委員 市社会福祉協議会 | |
|  | | 「配食ボランティア」の様子 | | | | | |
| <p>一人暮らし高齢者、障がい者世帯のマップを活用した支え合いの体制づくり 一人暮らし高齢者や障がい者世帯の「支え合いマップ」を作成し、孤立させない地域づくりを目的とします。</p> | 準備 | 実 施 | | | | 地域振興会 市社会福祉協議会 民生委員・児童委員 福祉推進員 町内会 | |
| <p>福祉推進員の活動の充実「いのちのバトン」 急病や災害などの緊急時に救急隊や医療機関の応急処置に活用するため、大切な命を守るための情報を記載したシートを作成し、福祉推進員の日常の活動の中で記載された情報の更新に取り組んでいきます。</p> | 準備 | 実 施 | | | | 市社会福祉協議会 民生委員・児童委員 福祉推進員 町内会 | |

第 1 次松倉地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) 支え合おう・みんな健やか^{とみ}十三の里



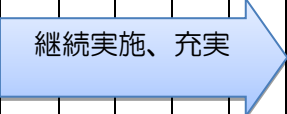
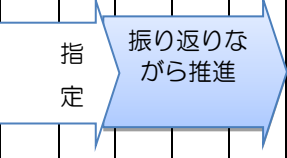

高齢者一人暮らし訪問活動の様子

基礎データ(2016年4月1日現在)

| | |
|----------------|--------|
| 人 口 | 1,143人 |
| 行政区数 | 13区 |
| 世帯数 | 389世帯 |
| 年少率 | 11.8% |
| 高齢化率 | 33.6% |
| 民生委員児童委員数 | 5人 |
| 福祉推進員数 | 12人 |
| 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 41人 |
| ふれあい・いきいきサロン数 | 3ヶ所 |

| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 |
|---|-----------------|-----------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 県定公園松倉城址と松倉城城郭群、金山跡、鹿熊刀踊り、金山谷獅子舞、北山獅子舞、戦国のろし祭りがあり歴史と文化の里で、自然豊かである ・ 地域のつながりが深く、人柄が良い | みんな元気に 共生社会 | ㊦ 子どもから高齢者の生きがい交流 |
| | | 視察研修会等での知識、技術の習得 |
| | | 共同募金活動を通じてたすけあい運動への参加 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供が少なく高齢一人暮らしや二人暮らしの増加 ・ もちより市(地元野菜の市場)がある ・ 過疎化と空き家の増加 いくつかの限界集落とともに空き家も増加 | みんなで活動、 福祉の輪 | 世代間の交流の促進 |
| | | ㊦ 集まれ！もちより市 |
| | | 一人暮らし住宅の除雪と雪下ろし |
| | | 一人暮らしの訪問活動 |
| | | ケアネット活動、見守り支援活動 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 鳥獣害の増加により 高齢者のいきがいである家庭菜園での野菜作りが困難 ・ 若者がいないため、日中での災害対策等災害時の避難対策が不十分 | みんなで声かけ 支え合う | ㊦ 災害避難マップの作成 |
| | | 要援護者(避難困難者)の把握 |
| | | 高齢一人暮らしや高齢所帯の把握 |

第 1 次松倉地区（小地域）福祉活動計画

| 重点実施取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|--|--|---------|---------|---------|---------|--|
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p>子供と高齢者の生きがい交流</p> <p>小学校児童の高齢者一人暮らし訪問活動を通じて高齢者の労りや大切に思う福祉の心を育むとともに、核家族化により子ども達と接する機会が少なくなった高齢者に安らぎを届ける活動の継続、さらに、異世代交流事業にも積極的に共催しながら生きがい交流を図ります。</p> <p>また、施設視察や研修会等により、福祉関連知識、技術を習得し松倉地区の福祉人材の資質向上を図り福祉相談に対応できるよう取り組みます。</p> | | | | | | <p>民生委員児童委員 松倉小学校 ふれあい・いきいきサロ ン 福祉推進員</p> |
| |  | | | | | |
| <p>集まれ！松倉もちより市</p> <p>松倉もちより市(野菜など販売)など地域の社会資源の中で、子どもたちが地域の大人たちとふれあう体験の中から地域の伝統や文化を学びます。また、子育て世代にも、松倉もちより市の活用を拡大します。</p> <p>平成 29 年度、平成 30 年度 福祉教育地域指定推進事業の指定地区</p> | 指 定 | | | | | <p>市社会福祉協議会 もちより市 自治振興会</p> |
| |  | | | | | |
| |  | | | | | |
| <p>地域の安心・安全マップ活用の取り組み</p> <p>高齢者一人暮らしや高齢者世帯、さらに災害時避難困難者の把握とともにマップを作成、自治振興会や自主防災会等の関係団体と共有しながら被災者を一人も見逃さない地域づくりに取り組みます。</p> | 調 整 | | | | | <p>市社会福祉協議会 自治振興会 区長会 自主防災会 町内会 民生委員児童委員 福祉推進員</p> |
| |  | | | | | |

第 1 次上野方地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン)

元気で住みよい上野方



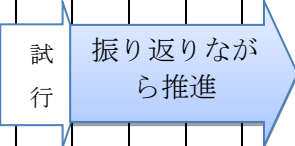

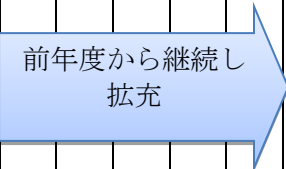
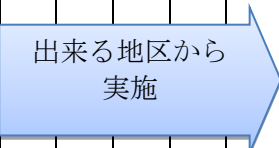
「買い物代行」(ケアネット活動)の様子

基礎データ(2016年4月1日現在)

| | |
|----------------|--------|
| 人 口 | 2,361人 |
| 行政区数 | 10区 |
| 世帯数 | 848世帯 |
| 年少率 | 12.5% |
| 高齢化率 | 29.7% |
| 民生委員児童委員数 | 6人 |
| 福祉推進員数 | 12人 |
| 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 80人 |
| ふれあい・いきいきサロン数 | 7ヶ所 |

| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 |
|---|----------------|---------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者から学ぶことが多い ・上野方みらいプロジェクト(若い世代)が地域に活躍している ・住民の顔と名前が一致しない | 上野方地区の活動力を高めよう | 現役員が1年に3人以上声掛けして地区行事に参加を促す |
| | | 地区ケース検討会の開催 |
| | | 市や社協開催講演会に誘い、福祉意識を高め福祉人材を養成する |
| <ul style="list-style-type: none"> ・高台からの海の眺めが良い ・中心地から離れ、坂が多い ・桃山公園がある ・全国女子野球が開催 ・桃、ぶどう、地場産野菜がおいしい ・買い物が不便 ・商店、コンビニがない | 上野方で暮らしを支えあおう | 買い物代行の拡大 |
| | | 新 軽トラ市の開催 (買い物サービス乗合買物カー形式) |
| | | ケアネット活動の充実 |
| | | 拡 配食サービスの推進 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・伝統の踊り「蝶六」がある ・交流の場が少ない ・医者や病院がない ・家同士が離れている ・障がい者の集える行事がない | つながりを深めよう | ふれあい・いきいきサロンの拡大 |
| | | 高齢者ミニ運動会の充実 |
| | | 野方ふえあい会の充実 |
| | | 子育てサロンの推進 |
| | | 新 マップによる支え合いの体制づくり |

第 1 次上野方地区（小地域）福祉活動計画

| 重点実施取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|--|--|--|---------|---------|---------|---|
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p>軽トラ市の開催(買い物サービス乗合買物カー形式)</p> <p>農家をしていて新鮮な野菜があること、軽トラ保有率が高いことから、上野方地区行事に「軽トラ市」を開催して、買い物に不便を感じている方のニーズに応えます。</p> <p>①移動手段のない方のために地区内をバスで巡回し、高齢者や子どもや障がい者誰もが参加できる行事とします。</p> <p>②バスには、「くらしのあったか応援隊」が添乗して、高齢者などの見守り、声掛け、介助などをして誰もが楽しめる行事とします。</p> <p>③上野方地区の行事に誰もが参加できる交流の場を増やします。</p> <p>H29 年度モデル開催。H30 年以降はモデル開催の結果を活かして展開します。</p> | 試 行 |  | | | | <p>自治振興会 市社会福祉協議会 ほか</p> |
| | | | | | |  <p>地域福祉座談会の様子</p> |
| <p>配食弁当事業の充実</p> <p>効果①調理しづらくなってきた高齢者がバランスのとれた手作り弁当を食べることができる。②民生委員児童委員が見守りを兼ねて配達している。③活力あるシニア世代が、地域の貢献しながら生きがいづくりに繋がっている。</p> <p>方法開催回数 月2回(現状維持)</p> <p>目標H29 年度 配食弁当必要者の洗い出し</p> <p style="padding-left: 20px;">H30 年度 配食数の増加</p> <p style="padding-left: 20px;">H33 年度 新規ボランティア活動者の増加</p> |  | | | | | <p>市社会福祉協議会 民生委員児童委員 上野方配食ボラン ティア</p> |
| <p>マップによる支え合い体制づくり</p> <p>孤立させない地域づくりを目的に、民生委員児童委員や福祉推進員が交代しても、マップを活かして支え合いの体制を構築します。</p> <p>平成33年までに、高齢者、障がい者等を対象とした支え合いマップを実施します。10/10行政区</p> |  | | | | | <p>民生委員児童委員 福祉推進員 区長 自治振興会 市社会福祉協議会</p> |

第 1 次本江地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) 支え合いによる安心のまちづくり



「ふれあい・いきいきサロン」の様子

基礎データ(2016年4月1日現在)

| | |
|----------------|---------|
| 人 口 | 7,514人 |
| 行政区数 | 24区 |
| 世帯数 | 3,072世帯 |
| 年少率 | 13.2% |
| 高齢化率 | 31.1% |
| 民生委員児童委員数 | 18人 |
| 福祉推進員数 | 33人 |
| 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 309人 |
| ふれあい・いきいきサロン数 | 15ヶ所 |

| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 |
|---|--------------------|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、高齢者世帯が増加して困りごとが多くなる ・近所づきあいが希薄化している ・公共交通少なく、車に乗れなくなった時が不安である | みんなで支え合い | 高齢者（一人暮らしなど）の見守り もしもカードの配布（75歳以上） |
| | | ④ ケアネット活動の推進 見守りから日常生活支援活動へ 買物支援、外出支援の取り組み |
| | | ボランティア人材確保 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設、病院、介護施設が多く、市街地の中心に位置している ・核家族化により高齢者や子育て世帯の孤立化防止 ・気軽に相談できる場が少ない | 気軽に相談できる 仕組みづくり | ⑤ 地区相談会の実施 |
| | | 座談会の開催（ニーズ、課題の把握） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・人口が多く若い世代も多い ・行事への参加者が少ない (行事の見直しが必要) ・ふれあいの場がない ・サロンへの男性の参加が少ない ・高齢者の孤立が心配である | ふれあいで 孤立を防ぐ | 花見茶会（3世代） 歩こう会（3世代） クリーン作戦（3世代） 友愛訪問（小学生と高齢者宅を訪問） 防犯教室（小学生対象） |
| | | ④ いきいきサロン活動の拡充 (参加者の増加、空白地区をなくする) |
| | | 敬老感謝の会 文化祭招待（一人暮らし高齢者） |

第 1 次本江地区（小地域）福祉活動計画


| 重点取り組み | | | | | | |
|---|--|---------|---------|---------|---|--|
| 重点実施取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p>ケアネット活動の強化 一人暮らし高齢者等に対する福祉推進員や民生委員・児童委員による見守りに加え、地域住民による見守り体制を強化します。</p> <p>支援が必要な方への援助活動、必要に応じてゴミだしや買物支援など気軽に取り組める活動からはじめます。ケアネット活動には、近隣住民の協力が不可欠であり、日頃のボランティア人材の確保に取り組めます。</p> <p style="text-align: right;">平成 33 年度ケアネット活動数 30 チーム</p> | | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">前年度から継続 拡大</div> | <p>民生委員児童委員 福祉推進員 町内会 市社会福祉協議会 など</p> |
| <p>相談体制の構築 核家族化による孤立化が進んでおり、様々な悩みや問題を相談できる人・場が少なく、法律問題、健康問題等について専門家に気軽に相談できる場を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市社協の協力を得て、年間3～4回の相談会の開催を目標とします。 ・広報や回覧の他、サロンや見守り等を通じ、広く住民に周知をはかり気軽に相談できる体制づくりに努めます。 <p style="text-align: right;">市社協「地区拠点型相談体制」モデル実施 平成 29 年度 2 回/年 平成 33 年度 4 回/年</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">モデル</div> | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">充 実</div> | <p>市社会福祉協議会 富山県福祉総合相談センター（弁護士） NPO法人富山成年後見人協会（行政書士） など</p> |
| <p>ふれあい・いきいきサロン活動の推進</p> <p>・サロン活動は情報交換や高齢者のふれあいに非常に有効であり、より多数の方の参加を目指します。町内会の協力を得て、サロンの全地区開設を目標とします。</p> <p style="text-align: right;">平成 33 年度サロン設置数 20 箇所</p> <p>友愛訪問の実施</p> <p>・小学生と一緒に花の植え込みを行い、学校で約 1 か月水やりをして育てた花鉢を、一人暮らし高齢者宅に訪問し届ける活動です。重要なふれあい活動として今後も取り組みを続けます。</p> | | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">前年度から継続 拡大</div> | <p>市社会福祉協議会 町内会 民生委員児童委員 福祉推進員など</p> |
| | | | | | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">前年度から継続実施</div> | <p>民生委員児童委員 福祉推進員、 町内会 など</p> |



児童の育てた花鉢を訪問してプレゼント

第1次片貝地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) 豊かで明るい 健康な片貝をめざせ

| | | 基礎データ(2016年4月1日現在) | | | |
|--|------------------|--|---------------------|-----------------------------|--|
| | | 人 口 | 1, 131人 | | |
|  <p>「洞杉」の風景</p> | | 行政区数 | 12区 | | |
| | | 世帯数 | 408世帯 | | |
| | | 年少率 | 9.7% | | |
| | | 高齢化率 | 37.7% | | |
| | | 民生委員児童委員数 | 5人 | | |
| | | 福祉推進員数 | 12人 | | |
| | | 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 51人 | | |
| | | ふれあい・いきいきサロン数 | 2ヶ所 | | |
| | | 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 団結力がある ・ 人口が少ないので、ほとんど顔見知りである ・ 1人暮らし高齢者が多い ・ スーパーがない ・ 元気なお年寄りが多い | 地域住民同志がお互いの生活を支え会おう | ㊦ 移動注文販売買い物サービス支援の充実（毎週水曜日） | |
| 片貝地区社協福祉人材の確保 「くらしのあったか応援隊」が買い物をしている高齢者などの支援や見守り、業者の取次をする | | | | | |
| ㊧ 買い物事業と合わせてケアネット活動で支え合いを広げる | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 片貝川の清流、毛勝三山の登山、キャンプ場、豊富な山菜と米がおいしい等を活かす ・ 世代間のつながりが薄れてきている ・ 少子高齢化が進んでいる ・ 交流の機会が少ない | 健康で明るい地域をめざそう | ケース検討会の充実 | | | |
| | | ㊨ 片貝いきいき倶楽部（介護予防体操） | | | |
| | | 三世代交流会 しめ縄作り 交流餅つき会 親子料理教室 三世代交流健康ウォーキング | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時対策の充実（平成27年実施の「わが家の緊急メッセージ」の更新） | 「安全で安心の里片貝」をめざそう | 「わが家の緊急メッセージ」の活用と更新 | | | |
| | | 災害時の台帳づくり | | | |

第 1 次片貝地区（小地域）福祉活動計画

| 重点実施取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|---|---|---------|---------|---------|--|---|
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p>移動注文販売買い物サービス支援の充実</p> <p>平成27年度から、移動注文販売形式の買い物サービスを実施しています。商店が公民館3カ所を回り注文を受けていた商品を届けており、地区の方々には大変喜ばれています。「畑で忙しい」からとふれあい・いきいきサロンはできませんが、移動注文販売車が来るまでの時間は、公民館が憩いの場として開放されるようになり、交流の場となっています。</p> <p>「くらしのあったか応援隊」が係わり、買い物に来られる高齢者、の方々への見守りや声掛けをしています。また、送り迎え荷物を運ぶ等の個々に合わせた支援活動が生まれてきています。</p> <p>H33年度までの目標として「くらしのあったか応援隊」の新たなメンバーを増やします。</p> | | | | |  | <p>民生委員児童委員 くらしのあったか 応援隊 福祉推進員 町内会 市社会福祉協議会</p> |
| |  | | | | | <p>買い物サービス支援事業の様子</p> |
| <p>ケアネット活動の充実</p> <p>移動注文販売でくらしのあったか応援隊が係わるうちに、状況に応じて来られなかった方の様子を見に行くこともあります。また、個々の状況がわかりやすくなり、新たな活動のきっかけとします。</p> <p>ケアネット活動の利用者をH33年度までに5名増やす。</p> | | | | |  | <p>市社会福祉協議会 町内会 地域振興会 民生委員児童委員 福祉推進員 近隣住民</p> |
| <p>我が家の緊急メッセージの活用の充実 災害時の台帳作りに活用</p> <p>平成27年度に配布した「我が家の緊急メッセージ」について、毎年度末各地区常会に依頼して、状況の変化のあった人等の把握を徹底します。冷蔵庫前に貼ってあるかなども確認する。確認項目を一定するため、確認事項を書類にして配布しています。</p> <p>平成29年 更新する体制を創ります。</p> | | | | |  | <p>民生委員児童委員 福祉推進員 区長 地域振興会 市社会福祉協議会</p> |

第1次加積地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) **0歳から100歳まで**
住んで楽しい りんごの郷加積

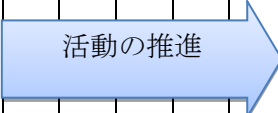
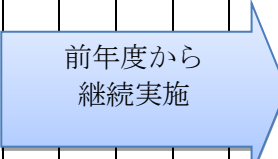

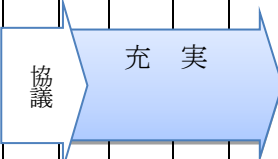


「健康ウォーキング」の様子

| 基礎データ(2016年4月1日現在) | |
|--------------------|---------|
| 人 口 | 6,282人 |
| 行政区数 | 24区 |
| 世帯数 | 2,467世帯 |
| 年少率 | 11.5% |
| 高齢化率 | 30.4% |
| 民生委員児童委員数 | 15人 |
| 福祉推進員数 | 42人 |
| 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 229人 |
| ふれあい・いきいきサロン数 | 8ヶ所 |

| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 | |
|--|------------------------|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> • おいしい加積りんごのとれる町 • 子供が少ない • 一人暮らし高齢者が多い • 空き家が多い • 役員のなり手が無い | みんなで暮らしを支え合う安心安全のまちづくり | ①りんごを使ったスイーツ作りコンテスト 一人暮らし高齢者との交流会 福祉推進員・民生委員合同ケース検討会 いきいきサロン・子育てサロン充実 | |
| | | ②魚津市民バスの利用促進 | |
| | | 子供からお年寄りまで心も体も健康に | 小学校の児童との交流促進（高齢者見舞い訪問・敬老会・福祉活動等（年2回）） ③健康講座（各地域年間2回） ④健康ウォーキングで加積地区名所巡り 障がい者との交流（心と体のバリアフリー） |
| | | | ⑤地域ごとの福祉支え合いマップ作り 安心カードの作成と更新 福祉推進員体制とケアネット活動の発展 |
| <ul style="list-style-type: none"> • 災害に対する備えが必要 • 災害時の近所の支え合いが必要である • 高齢者世帯が多い • 近所の様子が分からない | もっと知ろう、自分の住む町を | ⑥加積福祉相談の日 ⑦地域の福祉ニーズを発掘する（福祉推進員） | |

第 1 次加積地区（小地域）福祉活動計画

| 重点取り組み | | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|---|---------|---------|---------|---------|---------|---|------|
| 重点実施取り組み | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | | |
| <p>健康講座で健康づくり 健康な身体づくり、地区住民の交流の機会を増やすことを目的に、世代を問わず、住民誰でも参加できる事業を開催します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者も参加しやすいよう地域毎に出前講座を開催します。平成 31 年度には全地域年 2 回開催とします。 ・さらに身体を動かしたい人には、毎週水曜日開催のエクササイズウォークを実施しています。 ・講師 <ul style="list-style-type: none"> ・加積地区環境衛生協議会 ・市健康センター、市社会福祉協議会、福祉関係外部講師 | | | | | | 市社会福祉協議会 町内会 地域振興会 民生委員児童委員 福祉推進員 近隣住民 市健康センター 福祉関係外部講師 環境衛生協議会 | |
|  | | | | | | | |
| <p>障がい者との交流 心と体のバリアフリーによる障がいの特性を理解することを目的に、平成 25 年度から、「寺子屋教室」として、地区社協、学校、公民館と連携し障がいを個性として捉え、「だれも違った個性があっていい」という心温かい事業を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの企画として、農村環境改善センターを利用し「寺子屋教室」を開催します。 ・講師に県内で活躍する車いすバスケットやボッチャの選手を招き、指導を仰いで実際に体験をします。 ・学校を通じて参加者を募り、参加人数の増加を図ります。 | | | | | | 小学校 公民館 市社会福祉協議会 障がい者スポーツ 愛好会 ボランティア | |
|  | | | | | | | |
|  | | | | | | | |
| <p>「寺子屋教室」の様子</p> | | | | | | | |
| <p>マップによる支え合い体制づくり 孤立させない地域づくりを目的に、民生委員児童委員や福祉推進員が交代しても、マップを活かして支え合いの体制を構築していきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既に作成済みの「あんしんカード」の見直しをします。 ・個人情報尊重し、自分の周りの事に関心を持ち必要に応じて住民同士支え合う形を整えます。 ・協議の中で、地域の福祉ニーズを発掘して取り組みます。 | | | | | | 民生委員児童委員 福祉推進員 区長 地域振興会 自主防災会 市社会福祉協議会 | |
|  | | | | | | | |

第1次道下地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) **安全で安心して暮らせる
支えあいのまち道下**




道下の景色と子どもたち

基礎データ(2016年4月1日現在)

| | |
|-----------------|----------|
| 人 口 | 6,064 人 |
| 行政区数 | 23 区 |
| 世帯数 | 2,384 世帯 |
| 年少率 | 12.6% |
| 高齢化率 | 26.3% |
| 民生委員児童委員数 | 14 人 |
| 福祉推進員数 | 35 人 |
| 65 歳以上一人暮らし高齢者数 | 211 人 |
| ふれあい・いきいきサロン数 | 7ヶ所 |

| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 |
|---|----------------------|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・児童の見守り支援充実 ・挨拶がよい ・清掃などの参加率高い ・世代間の繋がりが薄い ・近隣との繋がりが薄い | 道下でともに 支えあう人づくり | 訪問（視察）研修会 県内地区社会福祉協議会との交流研修会 ④ 地区の人材の掘り起こしと育成 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・海や山の景観が美しい ・健康づくりができる ・交通の便が比較的良好 ・バスの運行が少ない ・インフラが整っている ・高齢化率が低い ・住民同士の交流薄い （アパートと戸建て） ・集う場がない ・生活道路の整備が出来ていない ・鉄道によって災害時の避難経路が制限される | 安全で安心して 暮らせるまちづくり | 敬老会対象 75 歳以上（参加者 160 名程度） ケース検討会（年 2 回 7 月・12 月） ミニ講座や地区の情報交換 見守り活動、ケアネット活動 ④ いのちのバトン情報シート ふれあいいきいきサロン（7 箇所） ふれあい訪問事業対象一人暮らし高齢者 鉢花プレゼント 保養旅行対象一人暮らし高齢者 いとこ煮会 子育てサロン（年 2 回） 男性料理教室 お雛祭り会 一人暮らし高齢者と園児などの交流会 三世代もちつき会 広報誌発刊（年 1 回） |
| <ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動が活発 ・若い人の活動が活発 ・役員選出が難しい ・地区役員の任期が短い （意識が根付かない） | 道下でともに 支えあう組織づくり | 地区懇談会（年 1 回） 地域福祉についての意見交換会 ④ 福祉防災マップの作成（要支援者、避難ルートの記載、共助の輪を広げる組織作り） ⑤ 「地区なんでも相談会」の開催 |

第 1 次道下地区（小地域）福祉活動計画

| 重点取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|---|--|---------|---------|---------|---------|--|
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p style="text-align: center;">重点実施取り組み</p> <p>「地区の人材の掘り起こしと育成」 ・高齢化した現役員との交代が円滑に実施できるよう、ボランティアに興味がある人材、ボランティア活動を希望している人材を地区に広く呼びかけ募集により確保します。 福祉人材の育成を図るため、福祉推進員の任期が最低3年になるよう各町内会へ要望を出します。 ・福祉推進員と町内役員とを区別します。 ・福祉推進員の行事参加を促進します。 ・地区福祉推進員協議会を設置します。 ・先進地視察研修を実施して福祉人材を育成します。</p> | 準備 | 実 施 | | | | 地区振興協議会 町内会 公民館 市社会福祉協議会 |
| |  <p style="text-align: center;">先進地視察研修の様子</p> | | | | | |
| <p>「いのちのバトン情報シートの取り組み」 救急隊や医療機関における応急処置・緊急措置に必要な情報（命を守る情報）をシートに記載することで、急病や災害など緊急時の備えとしておきます。 平成 26 年度からの取り組みであるが、現在まで、約 200 名の参加に留まっており、より多くの方の参加を目指し、取り組みの強化を図っていく必要があります。 平成 33 年までの具体的目標数値 1,000 人</p> | 前年度から 継続実施 | | | | | 地区振興協議会 自主防災会 町内会 公民館 市社会福祉協議会 |
| <p>「福祉防災マップの作成」 住宅地図に生活弱者（一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯、寝たきり高齢者、障害者など）や支援者、福祉関係者を記載し、緊急時や災害時など有事の際に役立つよう備える取り組みです。また、地域のふれあいや支えあいの組織、体制づくりを目的に、個人にあった対応ができるよう検討し実施します。 平成 26 年度からの取り組みであるが、一部の町内に留まっているため、改めて推進を図っていきます。 ・各地区にサンプルを配布します。 ・平成 33 年まで全地区実施します。</p> <p>「地区なんでも相談会の実施」 現在社会は問題が複雑化多様化しています。様々な悩みがある方に相談できる場が身近にあることが必要です。法律問題、健康問題等について専門家に気軽に相談できる場を提供します。 ・市社協の協力を得て、年間3～4回の相談会の開催を目標とします。 ・広報や回覧その他サロンや見守り等を通じ、広く住民に周知をはかり気軽に相談できる体制づくりに努めます。</p> <p style="text-align: center;">市社協「地区拠点型相談体制」モデル実施 平成 29 年度 3 回/年 平成 33 年度 隔月</p> | モデル | 充 実 | | | | 地区振興協議会 自主防災会 町内会 公民館 市社会福祉協議会 市社会福祉協議会 富山県福祉総合相談センター（弁護士） NPO 法人富山成年後見人協会（行政書士） など |

第 1 次経田地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) **誰もが安心して暮らせる**
住民の交流が活発な 温かい「経田」をつくろう！

| | | | | | | |
|---|---------------------|--|-----------------------|--|----------------------------|---|
|  <p style="text-align: center;">～経田七夕まつりに夕日を望む～</p> | 基礎データ(2016年4月1日現在) | | | | | |
| | 人 口 | 4,802 人 | | | | |
| | 行政区数 | 22 区 | | | | |
| | 世帯数 | 1,863 世帯 | | | | |
| | 年少率 | 11.4% | | | | |
| | 高齢化率 | 31.4% | | | | |
| | 民生委員児童委員数 | 13 人 | | | | |
| | 福祉推進員数 | 27 人 | | | | |
| | 65 歳以上一人暮らし高齢者数 | 193 人 | | | | |
| | ふれあい・いきいきサロン数 | 6ヶ所 | | | | |
| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・人材が豊富 ・元気な高齢者多い ・地区団体活動が活発 ・行事参加者固定化しており検討が必要 ・地区役員の固定化しており検討が必要 ・地区役員の高齢化しており検討が必要 ・役員後継者不足しており検討が必要 ・行事参加者少ない | 地域の 活動力を 高めよう | ①地域(福祉)活動の人材発掘と育成事業 広報「福祉きょうでん」の発行事業 役員等の視察研修会開催事業 福祉推進員研修会事業 | | | | |
| | | ①ボランティア養成講座開設(2回/年) ※元気な高齢者社会参加 福祉フォーラム開催事業 ふれあいバザー開催 | | | | |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・元気な子が多い ・団結力がある ・情に厚く深い ・人の繋がりが希薄 ・子供の交流の場なし ・人の集う場なし ・地区全体纏まりない ・核家族化が進んでいる | 住民同士の 繋がりを 深めよう | ①あいさつ運動の推進 いきいきサロン活動の充実 ※サロン増・参加者増・園児児童の参加等 三世代交流事業の推進 | | |
| | | | | ①気軽に集まれる交流の場設置事業 ※各種サロン等開設(空き家・福祉センター等活用) 敬老会の開催 環境美化運動 | | |
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・福祉への関心深い ・民児協活動活発・福祉施設多い ・独居高齢者の増加 ・高齢化進んでいる ・店が少なく買い物が不便 ・高齢者支援体制の充実が必要 ・車のない人の生活が不便 | 地域の 暮らしを 皆で 支え合おう | 要配慮者見守り・ケアネット活動 安心カード配布事業 マップづくりによる住民支え合いの体制づくり ※災害時支援・平時福祉活動活用 ケース検討会開催事業(ふれあいネットワーク) ふれあいランチ配食事業 独居高齢者ふれあい会食・おはぎ配食事業 買い物支援事業 |

第 1 次経田地区（小地域）福祉活動計画

| 重点実施取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|---|---------|--|---------|---------|---------|--|
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p>地域(福祉)活動の人材発掘と育成事業</p> <p>地域(福祉)活動の活力・推進力は人材であり、活動を支える担い手の高齢化・固定化や不足に対応するため、新たな人材の発掘と後継者の育成を検討、実施します。特に、元気な高齢者(含団塊世代)のマンパワーの発掘・活用及び社会参加推進を考え、それが高齢者の介護予防にも繋がります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会設置（推進体制構築・協議・企画・PDCA推進） ・PR活動・地域人材バンク構築・シンポジウム開催等 | 協議 |  | | | | 地区振興協議会 町内会 公民館 市社会福祉協議会 |
|  <p>ケース検討会の様子</p> | | | | | | |
| <p>あいさつ運動の推進</p> <p>人と人との繋がりが希薄な現在、地域のコミュニケーションの活性化を図り、豊かな人間関係を築くため、住民一斉の声掛け・あいさつ運動を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あいさつキャラバン隊設置活動 ・あいさつKYO(経)+1運動、 ・各種啓発運動 ・園児児童対象の標語、作文絵画募集及び展示等 | 協議 |  | | | | 地区振興協議会 町内会 保/小/中/高校 公民館他 |
| <p>安心カード配布事業</p> <p>要配慮者の急病や災害時などの緊急時の安全と安心を守る取組みとして、安心カード（医療情報・支援者情報等記載）配布事業を検討、実施します。</p> <p>カードを要配慮者台帳やマップづくりの資料としても活用</p> | 協議 |  | | | | 地区振興協議会 町内会 自主防 公民館 市社会福祉協議会 |
| <p>マップづくりによる住民支え合い体制づくり</p> <p>要配慮者の災害時支援や孤立させない地域づくりを目的に、個人に依った対応を検討、実施する。住民との繋がりを見える化した「支え合いマップ」をつくり、災害時のみならず、平時の見守り活動にも活用し、福祉課題への対応も図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・H29年度:事業推進体制構築・協議・住民への周知協力要請 ・H30年度:実施（支援者決定・住宅地図へ記載・活用等） | 協議 |  | | | | 地区振興協議会 町内会 自主防 公民館 市社会福祉協議会 |

第 1 次天神地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) **住みつづけたいたい天神地区をめざして**



「高齢者訪問活動」の様子

基礎データ(2016年4月1日現在)

| | |
|----------------|----------|
| 人 口 | 2, 416 人 |
| 行政区数 | 6 区 |
| 世帯数 | 860世帯 |
| 年少率 | 12.5% |
| 高齢化率 | 26.3% |
| 民生委員児童委員数 | 6人 |
| 福祉推進員数 | 12人 |
| 65歳以上一人暮らし高齢者数 | 78人 |
| ふれあい・いきいきサロン数 | 3ヶ所 |

| 地域特性 地域課題 | 基本目標 | 具体的実施事業・新規事業 |
|--|-------------------|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・市内では高齢者率が低い ・文化スポーツクラブがしっかり活動している ・高齢者や子どもとの交流が少ない ・役員の選出が困難である ・行事の参加者は常連者のみである ・元住民と新興住宅地住民との交流がない | 地域を元気にする 人づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・サロン活動の充実（子供等との交流を企画） ・親子ふれあいレクリエーション ・いで湯の集い ・若者との交流の機会を設ける ・清流、経田小学校の児童間交流 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ①「おふくの会」で高齢者のレストランの設置 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域における人材の発掘 ・団塊世代の地域デビューを図る ・地区の行事に参加を呼び掛ける <p style="text-align: center;">地域資源活用の健康散策コースの策定</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学びの森・温泉がある ・高齢化、一人暮らしが進む ・見守り者が少ない ・老々介護が心配 ・認知症が増加傾向にある ・買い物等における交通手段が不便 | 安心して暮らせる 地域づくり | ケアネット活動の推進 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・見守り活動を兼ねたおはぎ配食事業 ・ケース検討会（近隣の方と連絡を密にし、高齢者の情報を共有年3回開催） |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ①高齢者への「ひと声コール」の実施 ②地域住民の支え合いマップ作成 <p style="text-align: center;">民生委員・児童委員との連携強化</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・福祉に関する相談所がない ・人権の理解不足 ・災害時の避難の把握不足 ・高齢者や一人暮らしの方の避難の検討が必要 | 地域で支えあう しくみづくり | <ul style="list-style-type: none"> ①身近な相談窓口の整備「福祉なんでも相談会」実施 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度等の勉強会 ・社協だよりの発行で活動を周知 |
| | | <p style="text-align: center;">命やみんなと仲良くする大切さの啓発</p> |

第1次天神地区（小地域）福祉活動計画

重点取り組み

| 重点実施取り組み | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|--|---------|---------|---------|---------|---------|--|
| | H 29 | H 30 | H 31 | H 32 | H 33 | |
| <p>マップによる支えあう体制と災害時の避難先の作成</p> <p>支えあいマップづくりを通して、見守り活動に必要な要援護者等の正確な情報や所在を確認また地域住民の繋がりを明確化する。併せて、災害時における避難先や要援護者と連携・周知を図る。</p> <p>展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ①てんじん地域振興会に取組みの趣旨説明 ②天神地区民生児童委員協議会・自主防災組織と打合せ ③マップづくりの組織の立上げ ④作成 ⑤評価 ⑥配布 | | | | | | 民生委員・児童委員 てんじん振興会 区長会 年輪会 消防団 ふれあい・いきいきサロン 市社会福祉協議会 福祉推進員 自主防災 |
| <p>地域の連携を図り、繋がりの輪を広げる</p> <p>多くの住民が集う「いで湯の集い等」において、認知度の向上や参加者の促進を行い、地域住民の交流の拡大を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地区の行事やサロンに呼びかける ②社会福祉活動の啓発 ③寸劇や講演を組込む ④広報誌「ふくし天神」の当該枠の拡大 ⑤参加者等のアンケート実施 | | | | | | 市社会福祉協議会 てんじん振興会 年輪会 ふれあい・いきいきサロン |
| <p>福祉のなんでも相談体制の検討</p> <p>高齢者、一人暮らし、障がい者、子育て世帯が気軽になんでも相談できる体制を実施する。介護や相続に関する問題など専門職に気軽に相談できる体制の整備を行う（年3～4回程相談会の実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ①地域を支える人を増やす養成・フォローアップ講座 ②実施に向け相談場所や組織体制の検討とモデル開催のうえ、活用を促進する。 <p>市社協「地区拠点型相談体制」モデル実施</p> | | | | | | 市社会福祉協議会 富山県福祉総合相談センター(弁護士) NPO法人富山成年後見人協会(行政書士)など |



天神サロンリーダー研修会の開催

第 1 次西布施地区（小地域）福祉活動計画

基本理念(スローガン) 支え“愛“でつなごう！！西布施の里

| | | 基礎データ(2016年4月1日現在) | |
|--|------------------------|---|---------|
| | | 人 口 | 1,256 人 |
|  <p style="text-align: center;">児童が披露する布施谷節 (魚津市無形民俗文化財)</p> | | 行政区数 | 8 区 |
| | | 世帯数 | 436 世帯 |
| | | 年少率 | 8.0% |
| | | 高齢化率 | 36.1% |
| | | 民生委員児童委員数 | 5 人 |
| | | 福祉推進員数 | 10 人 |
| | | 65 歳以上一人暮らし高齢者数 | 45 人 |
| | | ふれあい・いきいきサロン数 | 2 ヶ所 |
| | | 地域特性 地域課題 | 基本目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・自然豊かで季節感がある ・西布施の特産品が豊富である ・西布施の魅力発信が必要 ・健康寿命が延伸している ・人材が豊富である ・おおくかしい | 西布施を 元気にする ひとづくり | 新 西布施サポートプロジェクト リーダーの確保と育成 (西布施流くらしのあったか応援隊) | |
| | | 視察研修会(年1回) 福祉推進員、民生委員・児童委員、くらしのあったか 応援隊等 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化が豊富である ・郷土芸能が伝承されている ・学童をしている ・親と同居している家庭が多い ・地区に親戚や仲良しが多い ・若者の行事への参加減少 ・少子高齢化で近所付き合いが希薄化 ・子どもとのつながりが少ない ・公共の遊び場がない | 西布施の里の つながり づくり | 新 「ふれあい広場」でつながろう 新コミュニティの場、子どもから高齢者まで交流 ・夏休みお楽しみ会・ママと一緒に(子育てサロン) ・体操・スクエアステップで仲間づくり ・ふれあいカフェで交流 ・昔の遊び・布施谷節の伝承 | |
| | | 三世代交流活動の充実…スポーツ交流・歩こう会・ 料理教室・ひなまつり 西布施の日の充実(年1回) 一人暮らし高齢者の訪問(年1回) いきいき健康の集い、保育園児との交流 | |
| | | ふれあいの里だより発行(年1回) | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・買い物がしづらい ・一人暮らし高齢者や介護が必要な高齢者が増加 ・災害時の共助が不安 | 安心して 暮らせる 地域づくり | 充 乗り合い買物タクシーでおでかけしましょう (月1回第3木曜日運行) | |
| | | 地区ケース検討会の充実(年2回) ケアネット活動 新 1人暮らし高齢者、障がい者世帯のマップを活用 した見守り・声かけ・助けあい | |

第1次西布施地区（小地域）福祉活動計画

| 重点取り組み | | 年次計画 | | | | | 協力機関 |
|--|-----|------|-----|-----|---|--|------|
| 重点実施取り組み | H29 | H30 | H31 | H32 | H33 | | |
| <p>買い物支援の充実「乗合買物カーで出かけよう」</p> <p>西布施地区は、最寄りのスーパーまで片道6キロあることや、コミュニティバスの乗り場まで急な坂道で路線から外れている布施爪を中心に、平成27年から、乗合買物カー形式の買い物支援を開始しました。</p> <p>利用者の皆さんから「自分で買い物ができて嬉しかった」「何年ぶりにわくわくした」「ぜひ続けて欲しい」の意見があり継続しています。効果として、閉じこもり防止や交流の場創りにも繋がり、少しずつの手伝いで、住み慣れた西布施に暮らし続けられることを実感しています。</p> <p>毎月第3木曜日、70歳以上一人暮らし高齢者、日中一人暮らしを対象に、サンブラザへ出かけています。H33年までの目標として「くらしのあったか応援隊」の新たなメンバーを増やし、高齢の為、車を離さざるを得ない方の支援活動もしていきます。</p> | | | | | | <p>くらしのあったか応援隊、福祉推進員 民生委員児童委員 市社会福祉協議会 魚津交通(株) サンブラザ</p> | |
| 平成27年度から継続実施 | | | | | | | |
| | | | | |  | | |
| | | | | | <p>買い物サービス支援事業 (乗合買い物カー形式)</p> | | |
| <p>「ふれあい広場」でつながろう</p> <p>愛着の持てる新公民館において、子どもから高齢者まで、誰もが元気でにぎわう新コミュニティとしての広場をつくります。また、現在実施している三世交流事業や西布施の日の活動とも連携しながら、交流の場をさらに創出することを目的として以下の内容で実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みお楽しみ会、ママと一緒に（子育て支援） ・ふれあいカフェで交流 ・体操・スクエアステップで仲間づくり ・昔の遊び・布施谷節の伝承 ・七夕づくり・リズム体操 | | | | | | <p>市健康センター 市社会福祉協議会 民生委員児童委員 地老連、PTA JA女性部 食生活改善推進委員 学童 公民館 布施谷節保存会 近隣住民 福祉推進員</p> | |
| 協議 | | | | | 実施 | | |
| <p>一人暮らし高齢者、障がい者世帯のマップを活用した見守り・声かけ・支えあい</p> <p>西布施地区で安心・安全に暮らし続けることができ、孤立させない地域づくりを目的に、個人にあった対応を検討、実施します。住民とのつながりが見える化した「支えあいマップ」を活用し、現状把握を共有するとともに、平成27年から始めた「あんしんカード」の情報も活用し、緊急時・災害時にも活かしていきます。地域振興会や自治会と連携し、西布施地区の安全に取り組んでいきます。</p> <p style="text-align: right;">H29 検討会開催 H30 実施</p> | | | | | | <p>市社会福祉協議会 西布施地域振興会自治会 民生委員児童委員 西布施流くらしのあったか応援隊 福祉推進員 自主防災組織</p> | |
| 調整 | | | | | 更新しながら活用 | | |

第6章 計画の推進体制、推進管理

本計画を確実に推進するため、計画（Plan）、実行（Do）、評価（Check）、改善（Action）のマネジメントサイクル（PDCAサイクル）を実行し、計画の進行管理を行います。

活動計画の推進体制、推進管理の流れ

